**『三体詩』　七言律詩**

**『三体詩』においては、七言律詩を、****①四実、②前虚後実、③前実後虚、④結句、⑤詠物に区分している（五言律詩と違って「四虚」の分類が無い）。このうち、**

**④結句…尾聯に特徴のあるもの**

**⑤詠物…物を詠じたことに特徴が有るもの**

**であるが、①四実、②前虚後実、③前実後虚においては、頷聯と頸聯に着目すると共に、実体のあるもの（景物）を述べている場合（典型的には写景）を「実」、実態のないもの（情思・作者の思い、感情）を述べているものを「虚」と呼び、**

**頷聯、頸聯とも「実」である詩を①「四実」、頷聯が「虚」、頸聯が「実」である詩を②前虚後実、頷聯が「実」で頸聯が「虚」で有るある詩を③前実後虚と呼んでいる。**

**『三体詩』収録の詩には、難解なものもあるが、『國譯漢文大成・三体詩』には、殆どの詩について、頷聯、頸聯の構成が記載されているので、律詩の作詩においては非常に参考になると考えられる。**

**四実**

**同題仙游觀　　　 同じくに題す**

仙臺初見五城樓　　　仙台 初めて見る 五城楼

風物淒淒宿雨收　　　風物 として 收まる

**山色遙連秦樹晚**　　　山色 遙かに連なる 秦樹の

**砧聲近報漢宮秋**　　　 近く報ず 漢宮の秋

**疎松影落空壇浄**　　　 影 落ちて く

**細草春香小洞幽**　　　細草 春 しくして 小洞 なり

何用別尋方外去　　　何んぞ用いん 別に 方外を尋ねて去ることを

人間亦自有丹丘　　　 た ら 有り

【語釈】

○仙游觀…漢の武帝が作った寺。長安の西山にある。○仙臺…仙遊觀。○五城樓…崑崙山にある仙人の住む楼、仙游觀に比定した。○萋萋…寂しく痛ましいさま。○宿雨…前夜からの雨。○山色…山の景色。○秦樹…咸陽の樹木。○何用…どうして～する必要があろうか。反語。○方外…中国域外の地、ここでは仙游觀以外の地。○人間…人間社会。○丹丘…道士が説く離騒の山。

**和樂天早春見寄　　　楽天が早春に寄せらるるに和す**

雨香雲淡覺微和　　　雨はしく 雲は淡くして を覚ゆ

誰送春深入棹歌　　　誰か 春の深きを送りて に入る

**萱近北堂****穿土早**　　　は 北堂に近くして 土をつこと 早く

**柳偏東面受風多**　　　柳は 東面にして 風を受くること多し

**湖添水色消殘雪**　　　湖は 水色を添えて 残雪 消え

**江送潮頭湧****漫波**　　　江は を送りて く

同受新年不同賞　　　に新年を受けて 同じく賞せず

無由縮地欲如何　　　地を縮むるに　く せんと欲す

【語釈】

○微和…旧暦一月の候。○棹歌…舟歌。○穿土…土を破って芽を生じる。○潮頭…潮水の波の頂点。○漫波…大波。○無由…方法がない。

【構成】

○第一句…時節。○第二句…彼（白居易）と此（元槇）。第三句…彼。○第四句…己。○第五句…彼。○第六句…己。○第七句。第六句…彼と己の双方を言う。

**和****趙相公登　の「に登る」に和す**

危樓高架泬寥天　　　危楼 高くかる たる天

上相閑登立綵旃　　　 に登り を立つ

**樹色到京三百里**　　　樹色 に到ること 三百里

**河流歸漢幾千年**　　　河流 漢に帰ること 幾千年

**晴峰聳日當周道**　　　 日にえて に当たり

**秋穀垂花滿****舜田**　　　 花をれて に満つ

雲路何人見高志　　　 何人か 高志をす

最看西面赤欄前　　　最も看る 西面 の前

【語釈】

○趙相公…不祥。○鸛雀樓…中国山西省永済県の西南の城壁にある三層の角楼。東南に中条山、眼下に黄河を望む名勝として知られる。○危樓…美しい楼、ここでは鸛雀楼。○泬寥…からりとして空しいｓま。泬寥天は秋の空にもちいる。○上相…趙相公のこと。○綵旃…彩られた旗。○京…長安。○周道…周王の都、西安。○舜田…舜が父の為に田を耕したところ、山西省平陽府蒲州。○雲路…雲の間、箇々では楼の上。○何人…趙相公以外の人。○西面…鸛雀楼より西の長安に向かうこと。○赤欄…赤い欄干。

【構成】

○第一句…楼。○第二句…登る人。○第三句…楼上の所見、第四句…高景。第六句…低景。○第七句・第八句…相公の人格。

**凌****歊臺**

宋祖凌歊樂未回　　　宋祖の凌歊 楽しみ 未だらず

三千歌舞宿層臺　　　三千の歌舞 層台に宿す

**湘潭雲盡暮山出** 雲 尽きて 暮山 出で

**巴蜀雪消春水來** 雪 消えて 春水 来る

**行殿有基荒薺合**　　　　 有りて 合し

**寢園無主野棠開**　　　寝園 主 無くして 開く

百年便作萬年計　　　百年 ち 万年の計をせども

巌畔古碑空綠苔　　　の古碑 空しく

【語釈】

○凌歊臺・凌歊…安徽省馬鞍山市當塗県の北にある楼台、南北朝の宋の高祖が作った物。○宋祖…宋の高祖劉裕。○湘潭…湖南省湘潭市湘潭県。○巴蜀…四川省にある巴と蜀の二郡。○行殿…行宮。離宮。○荒薺…荒れた地に生えるナズナ。○寢園…天子の墓。○野棠…野生の海棠の花。○巌畔…岩のほとり。○古碑…宋祖の功を標した古い碑。」

【構成】

○第一句・第二句…昔年。○第三句～第六句…今の所見。山は高所、水は低所、行殿は高所、寢園は低所、○第七句・第八句…全六句を終結して我に帰宿す。

（「絶海（中津）が学ぶところ、多く此の詩にあり」とあり）

**洛陽城**

禾黍離離半野蒿　　　 として は

昔人城此豈知勞　　　 にきて に労を知らんや

**水聲東去市朝變**　　　水声 東に去りて 市朝 変じ

**山勢北來宮殿高**　　　山勢 北より来たりて 宮殿 高し

**鴉噪暮雲歸****古堞**　　　鴉は 暮雲にぎて に帰り

**鴈迷寒雨下空壕**　　　鴈は 寒雨に迷いて 空壕に下る

可憐緱嶺登仙子　　　憐われむべし の

猶自吹笙醉碧桃　　　おら笙を吹きて に酔う

【語釈】

○禾黍…稲と黍。○離離…草木が生い茂るさま。○野蒿…よもぎ。○古堞…古い白く塗った垣根。○緱嶺…洛陽の隣にある山。○登仙子…「羽化登仙」により仙人となった人、ここでは周の靈王太子晉のこと。故事有り。

【構成】

○第一句…今。第二句…昔。○第三句～第六句…今。○第七句・第八句…今昔を結んで一に帰す。

**金陵　　　　金陵**

玉樹歌殘王氣終　　　 歌 残りて 王気 終わり

景陽兵合戍樓空　　　 兵 して し

**楸梧遠近千官塚**　　　 遠近 千官の塚

**禾黍高低六代宮**　　　 高低 の宮

**石燕拂雲晴亦雨**　　　 雲を払いて 晴れてた雨ふり

**江豚吹浪夜還風**　　　 浪を吹いて 夜た風

英雄一去豪華盡　　　英雄 一たび去りて 豪華尽き

惟有青山似洛中　　　だ の 洛中に似たる 有るのみ

【語釈】

○金陵…南京、六朝時代の南朝の都。○玉樹…玉樹広庭花。陳の後主が作った亡国の歌。○景陽…景陽楼、南北朝の宋の時代に築かれた。○戍樓…守備のために設けられた物見台。○楸梧…ヒサギとアオギリ。桐の総称。塚に多く植える。○禾黍…稲と黍。○石燕…イワツバメ、雨に遭うと飛ぶという。○江豚…ふぐの一種。

【構成】

○第一句・第二句…昔。○頸聯…今の陸上の景。○頸聯…今の江上の景。

**咸陽城東樓　　　　　　咸陽城の東楼**

一上高城萬里愁　　　一たび 高城に上れば 万里 愁う

蒹葭楊柳似汀洲　　　 に似たり

**溪雲初起日沈閣**　　　 初めて起りて 日 閣に沈み

**山雨欲來風滿樓**　　　山雨 来らんと欲して 風 楼に満つ

**鳥下綠蕪秦苑夕**　　　鳥は綠蕪に下る の

**蟬鳴黃葉漢宮秋**　　　蟬は黃葉に鳴く 漢宮の秋

行人莫問當年事　　　 問うかれ 当年の事

故國東來渭水流　　　故国 流る

【語釈】

○咸陽城…西安詩にある咸陽、秦の都。○蒹葭…オギとアシ。○汀洲…水中に土砂が溜まって出来た中洲。○綠蕪…緑の雑草、青々と茂った草。転じて亡国の跡をいう。○秦苑…秦の時代の御苑。○行人…旅人。○當年…当時。○故國…昔より続いている国。○東來…東に向かって。○渭水…黄河の支流の一つ、甘粛省から、陝西省咸陽市の南、西安市の北を流れて黄河中流の潼関で合流。流域の盆地は関中と呼ばれる。

【構成】

○頷聯…無情の物の写景。○頸聯…有情の物の写景。○尾聯…自分の情を詠う。

**晚自東郭回留一二遊侶　　にり一二の****遊侶を留む**

鄉心迢遰宦情微　　　 として なり

吏散尋幽竟落暉　　　じ を尋ねて をう

**林下草腥巢鷺宿**　　　林下 草 くして り

**洞前雲濕雨龍歸**　　　洞前 雲 いて 帰る

**鐘隨****野艇回孤棹**　　　鐘はに従いて　をし

**鼓絕山城掩半扉**　　　は山城に絶えて をう

今夜西齋好風月　　　今夜 に 風月 好からん

一瓢春酒莫相違　　　の いうこと かれ

【語釈】

○東郭…東の城壁。遊侶…遊び友達。○鄉心…故郷を思う心。○迢遰…遙かなさま。○宦情…仕官したいという気持。○吏散…官吏にして閑の有る身分。○幽…閑かで奥ゆかしい趣。○落暉…沈み行く太陽。夕日。○雨龍…龍の一種。○野艇…野水に浮かぶ小舟。○孤棹…孤舟。○西齋…文人の書斎。○春酒…冬に仕込んで春に熟した酒。

【構成】

○首聯・頷聯…東郭での遊びの動機とその風景。○頸聯…東郭より帰ったときの叙景。○尾聯…遊侶を留める吾が家の事を述べる。

**題飛泉觀宿龍池　　　　のに題す**

西巖泉落水容寬　　　 泉 落ちて 水容 く

靈物蜿蜒黑處蟠　　　 として にる

**松葉正秋****琴韻響**　　　 に秋にして 響き

**菱花初曉****鏡光寒**　　　 初めてけて 寒し

**雲収星月浮山殿**　　　雲は星月を収め 山殿に浮かび

**雨過風雷遶石壇**　　　雨は風雷を過ぎて 石壇をる

仙客不歸龍亦去　　　 帰らず 龍 た 去り

稻畦長滿此池乾　　　 長く満ちて 此の池 乾く

【語釈】

○飛泉觀…道士の寺の名、浙江省建徳県にある。○宿龍池…飛泉觀にある池。○水容…水流のありさま。○靈物…龍。○蜿蜒…うねうねとわだかまっている有様。○黑處…水深の深い処。○琴韻…琴の音。○鏡光…鏡のような池の光。○仙客…飛泉觀に棲んでいた道士。○稻畦…稲の田。

【構成】

『國譯漢文大成』の著者からは「支離滅裂」と酷評されているが、一応

○首聯・頷聯…飛泉觀の近景。○頸聯…飛泉觀からの遠景。○尾聯…前六句について、現在の様子を書き下して往時を追懐する。

**咸陽懷古**

經過此地無窮事　　　此の地を経過して の事あり

一望淒然感廢興　　　一望 として を感ず

**渭水故都秦二世**　　　の故都 秦の二世

**咸陽秋草漢諸陵**　　　の秋草 漢の諸陵

**天空絕塞聞****邊鴈**　　　天は空しくして　絶塞に を聞き

**葉盡孤村見夜燈**　　　葉は尽きて 孤村に夜灯を見る

風景蒼蒼多**少**恨　　　風景は蒼々たり 多少の恨

寒山半出白雲層　　　寒山　半ば出ず 白雲の層

【語釈】

○咸陽…西安市咸陽、秦の都のあったところ。○無窮…感慨きわまりないこと。○淒然…寂しく痛ましいさま。○廢興…興ることと廃れること。○渭水…黄河の支流の一つ、甘粛省から、陝西省咸陽市の南、西安市の北を流れて黄河中流の潼関で合流。流域の盆地は関中と呼ばれる。○絕塞…辺境の寨、万里の長城を指す。○邊鴈…北辺から北雁。○蒼蒼…老樹が鬱蒼として茂るさま。○多少…いくばく。○寒山…葉が落ち寒々とした山。

【構成】

○首聯…自分の思い。○頷聯…比較的近景。○頸聯…遠景。○尾聯…総括して思いを風景に託す。

**黃陵廟**

小孤洲北浦雲邊　　　 の

二女明粧共儼然　　　二女の明粧 共にたり

**野廟向江春寂寂**　　　 江に向かいて 春

**古碑無字草芊芊**　　　古碑 字 無くして 草 たり

**東風近暮吹芳芷**　　　東風 暮に近かく を吹き

**落日山深哭****杜鵑**　　　落日 山に深く く

猶似含嚬望巡狩　　　猶お を含みて を望むに似たり

九疑如黛隔湘川　　　はの如く を隔つ

【語釈】

○黃陵廟…洞庭湖の口にあり、舜の二妃、娥香と女英を祀る廟。湘夫人祠ともいう。○小孤洲…湖南省岳陽市近くの地名。○二女…娥香と女英。○儼然…厳かでいかめしいさま。○野廟…野原にある廟。○寂寂…寂しく静かなさま。○芊芊…草木が盛んに生い茂るさま。○東風…春風。○芳芷…香しヨロイグサ。○杜鵑…ホトトギス、蜀の望帝の魂が杜鵑になったという伝説がある。○含嚬…額に皺を作って憂えるさま。○巡狩…天子が諸国を視察して歩くこと、舜は、巡狩中に洞庭湖の近くで崩御した。○九疑…九疑山、湖南省寧遠県の南にあり、舜を葬った山。○湘川…湖南省長沙市を流れる湘江。

【構成】

○首聯…導入と極近景の叙景。○頷聯…近景の叙景。○頸聯…周囲の様子の叙景。○第七句…作者の思い。○第八句…遠景の叙景。

**晚歇湘源縣　　　　　晚ににむ**

烟郭遥聞向晚雞　　　 遥かに聞く に向う

水平舟靜浪聲齊　　　水 平にして 舟 静かにして し

**高林帯雨楊梅熟**　　　高林 雨を帯びて 熟し

**曲岸籠雲****謝豹啼**　　　曲岸 雲をめて 啼く

**二女廟荒宮樹老**　　　二女の廟は荒れて 宮樹老い

**九疑山碧楚天低**　　　九疑山は碧にして 楚天低し

湘南自古多離怨　　　湘南 り 多し

莫動哀吟易慘悽　　　を動して を 易からしむること莫かれ

【語釈】

○湘源縣…廣西省桂林市全州県。○烟郭…靄の籠めた郭。○楊梅…ヤマモモ。○謝豹…杜鵑の別名。○二女…舜帝の妃で、舜の後を追って入水した娥香と女英。二女廟は黃陵廟。○宮樹…廟中の樹木。○九疑山…湖南省寧遠県の南にあり、舜を葬った山。○楚天…楚の国（湖北・湖南省）の空。○湘南…洞庭湖の南の地方、屈原、娥香と女英のように別れの怨みを持つ物が多い。○哀吟…悲しんで詩歌を吟ずる。○慘悽…痛ましく悲しい。

【構成】

○首聯…背景の写景。○頷聯…黃陵廟の回りの写景。○頸聯…二女に関係のある地の写景。○尾聯…作者の思い。

**廢宅**

風飄碧瓦雨摧垣　　　風はをし 雨は垣をく

却有隣人爲鎖門　　　却って 隣人の為に 門を鎖ざす有り

**幾樹好花閑白晝**　　　幾樹の好花 白昼にに

**滿庭荒草易黃昏**　　　満庭の荒草 なりし

**放魚池涸蛙爭聚**　　　放魚の池はて 蛙は争いてり

**棲燕梁空雀自喧**　　　のは空しく 雀はらすし

不獨淒涼眼前事　　　り たる 眼前の事のみならず

咸陽一火便成原　　　咸陽 一火 便ち と成る

【語釈】

○黄昏…たそがれ。○棲燕梁…燕が巣を作る梁。○淒涼…物寂しい。○咸陽…西安市咸陽、秦の都のあったところ。○一火…阿房宮が項羽に放火されて灰燼に帰したこと。

【構成】

○首聯…遠景の写景。○頷聯…廃宅の回りの写景。○頸聯…廃宅の中と池の写景。○第七句…作者の思い。○第八句…巨景の描写。

**龍泉寺絕頂　　　　の**

未明先見海底日　　　未だ明けざるに ず 海底の日を見る

良久遠雞方報晨　　　久くして 遠雞 にを報ず

**古樹含風長帶雨**　　　古樹 風を含みて 長く雨を帯び

**寒巖四月始知春**　　　 四月 始めて春を知る

**中天氣爽星河近**　　　中天 気 にして 星河 近く

**下界時豐雷雨勻**　　　下界 時 豊にして 雷雨 し

前後登臨思無盡　　　前後 登臨して 思いは尽くること無し

年年改換往來人　　　年々 改めわる 往来の人

【語釈】

○龍泉寺…河北省邢台市龍泉寺。○寒巖…高く寒い山崖。○中天…空の真ん中。○前後…たびたび。○登臨…高き二登って下を見下ろす。○往來人…寺に住む僧侶。

【構成】

○首聯…龍泉寺から見下ろした写景と、遠くからの音。○頷聯…龍泉寺の在る場所の写景。○頸聯…龍泉寺の上方と下方の写景。○尾聯…作者の思い。

**和賈至早朝大明宮****の「ににす」に和す**

絳幘雞人送曉籌　　　の を送り

尚衣方進翠雲裘　　　 に進む

**九天閶闔開宮殿**　　　九天の 宮殿を開き

**萬國衣冠拜冕旒**　　　万国の衣冠 を拝す

**日色****乍臨仙掌動**　　　日色 乍ち にみて動き

**香烟欲傍袞龍浮**　　　香煙はに傍いて浮ばんと欲す

朝罷須裁五色詔　　　朝 みて らく 五色のを裁すべし

佩聲歸向鳳池頭　　　 帰り向う の

【語釈】

○賈至…字は幼幾。洛陽の出身。開元二三年の進士。右散騎常侍に至った、このとき中書舎人。○早…早朝。朝…参内すること。大明宮… 長安の都の東の内裏。○絳幘…赤い帽子。○雞人…官名、夜明けを知らせて宮殿内の百官を起こす役。○暁籌…夜明けの時刻。○尚衣…天子の衣冠を管理する職。○翠雲裘…みどりの糸で雲の模様を縫い取りした衣服。○九天…九重の天。宮殿。ここでは大明宮を指す。○閶闔…天門。ここでは大明宮の宮殿の門を指す。○冕旒…かんむりの前後にたれ下げる飾りの玉。転じて皇帝。○日色…太陽の光。○纔…

やっとのことで。はじめて。○仙掌 … 漢の武帝が宮殿の庭に立てた承露盤。○袞龍…体をうねらせた竜を刺繍した天子の礼服。○須…「すべからく～べし」と読み、「ぜひ～する必要がある」「～するべきだ」と訳す。裁…詔書を起草する。珮声… 腰におびた佩玉の音。○

鳳池…鳳凰池の略称。鳳池のそばに中書省があったことから、中書省を指す。（唐詩選）

**和賈至早朝大明宮　　のににすに和す**

雞鳴紫陌曙光寒　　　雞はに鳴いて 寒し

鶯囀皇州春色闌　　　鶯は皇州に転じて 春色 なり

**金闕曉鐘開萬戸**　　　の曉鐘 万戸を開き

**玉階仙仗擁千官**　　　の仙仗 千官を擁す

**花迎劒珮星初落**　　　花はを迎え 星初めて落ち

**柳拂旌旗露未乾**　　　柳はを払いて 露 未だ乾かず

獨有鳳皇池上客　　　独り の のみ有り

陽春一曲和皆難 陽春の一曲 和すること 皆 し

【語釈】

○賈至…字は幼幾。洛陽の出身。開元二三年の進士。右散騎常侍に至った、このとき中書舎人。○早…早朝。○朝…参内すること。○大明宮…長安の都の東の内裏。○皇州…天子の住む都。長安を指す。○紫陌…都の街路。「陌」は道路。○曙光…あけぼのの光。○玉階…宮殿の玉ぎょくをちりばめた階段。○仙仗…天子を警護する儀仗兵。○擁…擁護する。○千官…出仕するおおぜいの役人。○剣佩 …腰に下げる剣と佩玉。参内する役人の正装。○星初落○夜が明けて星が見えなくなるのは、太陽が沈むように星が西の空から落ちると考えられていた．○旌旗…旗指物。天子の旗を指す。○鳳皇池…鳳池に同じ。鳳皇池のそばに中書省があったことから、中書省を指す。陽春…格調の高い歌の意。（唐詩選）

【構成】

○首聯～頸聯…朝見の儀の写景。○尾聯…和する意を言う。

**詶暢當****嵩山尋麻道士見寄****暢当がに****麻道士を尋ね寄せらるるに詶ゆ**

聞逐樵夫閑看棋　　　聞く をいてにを看ると

忽逢人世是秦時　　　忽ち 人世に逢うは 是れ 秦時

**開雲種玉嫌山淺**　　　雲を開き 玉を種えて 山の浅きを嫌い

**渡海傳書怪鶴遲**　　　海を渡り 書を伝えて 鶴の遅きを怪しむ

**陰洞石幢微有字**　　　の かに字有り

**古壇松樹半無枝**　　　の ば枝無し

煩君遠示青囊籙　　　君をして 遠く示す

願得相從一問師　　　願はくは 相従うを得て 一たび師を問わん

【語釈】

○暢當…河東の人。貞元の初、太上博士となる。果州刺史に至る。○嵩山…河南省鄭州市にある山。五嶽の一つ。○麻道士…不祥。○「逐樵夫閑看棋」…暢当が言い、盧綸が聞いた言葉。晉の王質の故事。○「忽逢人世是秦時」…陶淵明『桃花源紀』。○開雲種玉…麻道士の行為。○陰洞…奥深い洞。○石幢…経文を刻んだ石の円柱。○古壇松樹…石壇を廻る松の老樹。○青囊籙…医書を入れる袋に入れた書類。ここでは、暢当が寄せられた詩のこと。○相從一問師…詶暢にしたがって、一度、麻道士を訪問する意。

【構成】

○首聯…聞いた言葉と感想。○頷聯…行為の写実。○頸聯…写景。○尾聯…願望。

**呉中別嚴士元　　　 に別る**

春風倚棹闔閭城　　　春風 棹に倚る の城

水國春寒陰復晴　　　水国 春寒くして りて復た晴る

**細雨濕衣看不見**　　　細雨 衣をして 看れども見えず

**閑花落地聽無聲**　　　 地に落ちて 聽くに声なし

**日斜江上孤帆影**　　　日は斜めなり 江上 孤帆の影

**草綠湖南萬里情**　　　草は緑なり 湖南 万里の情

東道若逢相識問　　　東道 若し の問うに逢わば

青袍今已誤儒生　　　 今 已に を誤まると

【語釈】

○厳士元…唐の馮翊臨晋（いまの陝西省華陰）の人、大理司直、京兆府戸曹掾、殿中侍御史、河南の令、刑部郎中、国子司業などをつとめた。○呉中…江蘇省蘇州市。○倚棹…船を停める。○闔閭城…呉王闔閭が都を置いた蘇州を指す。○水国…川や湖が多い土地、水郷地帯。○陰…曇る。○水閣　水辺に建てられたたかどの。○細雨…霧雨、ごく細かいあめ。○孤帆…ただ一隻の帆掛け船。○万里…非常に遠い距離。○東道…東へ向かう道。○相識…知り合い。○青袍…唐制では官位の低い八九品役人の服。○儒生…孔子の学を修める学者。

【構成】

○頷聯は閑適、他は送別の詩。

○首聯…広大な叙景。○頷聯…近景の叙景。○頸聯…遠景の叙景。○尾聯…自分の気持ち。

**送王二少府貶潭・峡　　の・にせらるるを送る**

嗟君此別意何如　　　く 君が此の別れ 意何如んと

駐馬銜**盃**問謫居　　　馬をめ　杯をんで を問う

**巫峽啼猿數行淚**　　　 猿 啼き の淚

**衡陽歸雁幾封書**　　　の帰雁 幾封の書

**青楓江上秋天遠**　　　 秋天 遠く

**白帝城邊古木疎**　　　 古木 らなり

聖代祗今多雨露　　　聖代 多雨の露

暫時分手莫躊躇　　　を手を分つも することかれ

【語釈】

○少府 … 官名。県の尉（検察・警察を指揮する職）の雅名。○貶… 官位をおとされて地方に流されること。○峡中…今の三峡地方。○長沙…湖南省長沙市。○嗟…感嘆詞、ああ。○意何如…胸のうちの悲しみは、いかばかりであろうか。○駐馬…両少府の馬を引きとめる。銜杯…別れの杯を口にあてる。○謫居…配所。○巫峡…四川省巫山県の東にある峡谷。三峡の険の一つ。○衡陽帰雁…衡陽は湖南省南部の町。長沙から約二百キロほど南にある。その北にある衡山には回雁峰という峰があり、北から渡ってきた雁はここから南へは飛ばずに引き返すといわれた。○幾封書…何通の手紙。○青楓江…長沙の近くを流れる川の名、位置は不明。○聖代…りっぱな天子が治める御世。○即今…ただいま、現在。○雨露…天子の恵みをたとえる。○暫時… … しばらくの間。○分手…別れること。○躊躇…去りかねてためらうこと。（唐詩選）

**西塞山**

西晉樓船下益州　　　の楼船 益州より下り

金陵王氣漠然收　　　金陵の王気 漠然として收まる

**千尋鐵鎖沈江底**　　　の 江底に沈み

**一片降旛出石頭**　　　一片の より出ず

**人世幾回傷往事**　　　人世 幾回か 往事を傷む

**山形依舊枕寒流**　　　山形 旧に依りて 寒流に枕す

今逢四海爲家日　　　今　四海　家と為るの日に逢いて

故壘蕭蕭蘆荻秋　　　故塁 蕭々として 秋なり

【語釈】

○西塞山…湖北省武昌の東にあり長江に臨む。○西晉…三国時代を統一した国。○益洲…四川省成都。○金陵…南京。○王氣…王者を出す兆しのある感じ、雰囲気。○千尋…山などの非常に高いこと、谷などの非常に深いこと、ここでは長い意。○降旛…降伏の合図の旗。○石頭…金陵の西にある城。○往事…昔の事．○依舊…昔からのありさまで変わらない。○四海…四方の海、ここでは天下。○故壘…昔のとりで。○蕭蕭…物寂しくわびしいさま。○蘆荻…あしやおぎ。

（唐詩三百首）

【構成】

○首聯・頷聯…往時の写景。○第五句…追懐の情。○第六句…今の遠景の写景。○第七句…今の状況。○第八句…今の近景の写景。

**早春五門西望　　　早春 五門より西望す**

百官朝下五門西　　　百官 朝を下る 五門の西

塵起春風滿御堤　　　塵は春風に起りて 御堤に満つ

**黃帕蓋鞍呈了馬**　　　　鞍をう し了る馬

**紅羅纏項鬬回雞**　　　　にう いてる雞

**館松枝重牆頭出**　　　館松 枝 重くして より出で

**渠柳條長水面齊**　　　 長くして 水面にし

惟有教坊南草色　　　だ 教坊の南草の 色のみ有りて

古城教坊冷淒淒　　　古城の 冷やかにして たり

【語釈】

○五門…皋門、庫門、雉門、應門、路門を言うが転じて宮城の門を指す。○朝下…退朝すること。○御堤…御溝の堤。○黃帕…黄色の旗。○黃帕…黄色い布。○呈了馬…贈呈された馬。○紅羅…紅色の薄い布。○館松…館の庭の松。○牆頭…垣根のてっぺん。○渠柳…お堀に植えてある柳。○教坊…音楽を管理する役所。○陰處…日の当たらないところ。○淒淒…寂しく痛ましいさま。

【構成】

○首聯、頸聯、頷聯は、玄宗の時代の繁栄を写し、尾聯は現在の衰退を述べる。第一句から第八句まで写景。

○首聯…軽婉。○頷聯…重大。○頸聯…軽く銖に至る。○尾聯…軽婉。

**錦瑟**

錦瑟無端五十絃　　　 くも 五十絃

一絃一柱思華年　　　 を思う

**莊生曉夢迷蝴蝶**　　　荘生の　に迷い

**望帝春心託杜鵑**　　　望帝の春心 に託す

**滄海月明珠有淚**　　　 月 明かにして に淚有り

**藍田日暖玉生煙**　　　 日 にして は煙を生ず

此情可待成追憶　　　此の情 追憶を成すを待つべけんや

只是當時已惘然　　　只だ是れ 当時 已に

【語釈】

○錦瑟…立派な瑟（おおごと）。○無端…わけもなく。○柱…ことじ。○華年…若く華やいでいた年頃。○莊生…荘周、荘子。○迷…自分が夢で蝶になっているのか、蝶が夢で自分になっているのかということで迷う。○蝴蝶…蝶。○望帝…蜀の望帝。春心…春を思う心。○托杜鵑…血を吐きながら悲しげに鳴く杜鵑（ホトトギス）に托す。○滄海…青い海珠…ここでは真珠。○有涙…鮫人の涙。南海に住み、水中で機（はた）を織り、泣くときは真珠の涙をこぼすという。○藍田…陝西省藍田県東南にある山の名で、名玉を産する。○日暖…（藍田の山に）陽光が射す。○生煙…五色の雲煙が生じて宝気が立ち上る。○此情…この（鬱々とした）心情。○可待…何を待とうか、待つまでもない。○當時…その頃、（妻が亡くなった）その頃。○已…とっくに、すでに。○惘然…気落ちしてぼんやりするさま。

**江亭春霽**

江蘺漠漠荇田田

江上雲亭霽景鮮　　　江上の雲亭 鮮なり

**蜀客帆檣背歸燕**　　　の 燕の帰るにき

**楚山花木怨啼鵑**　　　楚山の花木 の啼くを怨む

**春風掩映千門柳**　　　春風　す 千門の柳

**曉色淒涼萬井烟**　　　 たり の煙

金磬泠泠水南寺　　　 泠々たり の寺

上方臺殿翠微連　　　上方の台殿 連なる

【語釈】

○江蘺…水草の名、おんなかずら。○漠漠…広大ではっきりしないさま。○荇…水草の名、あぎさ。○田田…水面に広がるさま。○雲亭…雲を凌いで立つ亭。○霽景…晴れた景色。○蜀客…蜀の旅人。○帆檣…帆柱。○背…逆方向に行く。○楚山…戦国時代の楚の地（洞庭湖周辺）の山。○啼鵑…ホトトギスの鳴き声。○掩映…（千門）を蔽って照り映える。○曉色…夕暮れの景色。○淒涼…冷ややかに侘しい。○萬井…多くの家のある街。○金磬…金属でつくった、への字型をした打楽器。○翠微…山の緑。

【構成】

○総べて叙景からなる。○首聯…軽婉。○頷聯…重大。○頸聯…軽く銖に至る。○尾聯…軽婉。

**送人之嶺南　　　人のにくを送る**

關山迢遰古交州　　　関山 たり

歳晏憐君走馬遊　　　れて憐む 君が 馬を走らせて遊ぶを

**謝氏海邊逢奼女**　　　 に逢い

**越王潭上見青牛**　　　 青牛を見る

**嵩臺月照啼猿樹**　　　 月は照らす の樹

**石室烟涵古桂秋**　　　石室 煙はす の秋

迴望長安五千里　　　長安をすれば 五千里

刺桐花下莫淹留　　　の花下 すること莫かれ

【語釈】

○嶺南…広東省・広西省一帯。○關山…関所のある山。○迢遰…遠く遙かなさま。○古交州…古の交州（広東省広州市）。○晏…暮。○「謝氏海邊逢奼女」…「唐詩鼓吹」の故事。○「越王潭上見青牛」…「南越志」の故事。○嵩臺…高いうてな。○石室…広東省肇慶市石室山。○石室…嵩臺にある石室。○烟…霞、靄。○迴望…振り返って望み見る。○刺桐…桐に似た樹木、南海より福州に特に多いとされる。○淹留…久しく留まる。

【構成】

○首聯…嶺南での様子の想像。○頷聯…故事の写景。○頸聯…嶺南の写景。○尾聯…作者の願望。○首聯…軽婉。○頷聯…重大。○頸聯…軽く銖に至る。○尾聯…軽婉。

**九日登呈劉明府　　九日 仙台に登りに呈す**

漢文皇帝有高臺　　　の高台 有り

此日登臨曙色開　　　此の日 すれば 開く

**三晉雲山皆北向**　　　の雲山 皆 北に向い

**二陵風雨自東來**　　　二陵の風雨 東り来る

**關門令尹誰能識**　　　関門の 誰か能く識る

**河上仙翁去不回**　　　河上の 去りてらず

且欲近尋彭澤宰　　　つ 近く のを尋ね

陶然一醉菊花杯　　　として 一たび 菊花の杯に酔わんと欲す

【語釈】

○九日…九月九日、重陽の節句。○仙臺…河南省陜県にあった台、漢の文帝が河上公に謁せんとしたが、公は已に上昇していたので、望仙台を築いて祭ったとある。○明府…県令の尊称。○三晉…韓、魏、趙を言う、晉の国が三分された。○二陵…殽山（河南省西端にあり函谷関に繋がる。）にある二つの丘。○關門令尹…老子から『老子』を伝えられたという尹喜。○河上仙翁…『老子』を授けた河上公。○彭澤宰…陶淵明（彭澤県の県令であった）、此処では劉明府のこと。

【構成】

○首聯…軽婉。○頷聯…重大。○頸聯…軽く銖に至る。○尾聯…軽婉。

**叢臺**

有客新從趙地回　　　客有り 新たに の地りる

自言曾上古叢臺　　　ら言う て に上ると

**雲遮****襄國天邊去**　　　雲はをりて 天辺に去り

**樹繞漳河地裏來**　　　樹はをりて より来たる

**絃管變成山鳥哢**　　　 変じて 山鳥と成ってり

**綺羅留作野花開**　　　綺羅 留まりて 野花とりて開く

金輿玉輦無消息　　　 消息無く

風雨惟知長綠苔　　　風雨 だ知る 緑苔を長ぜしむるを

【語釈】

○叢臺…戦国時代の趙が築いた楼台で河北省邯鄲県にある。○襄國…河北省邢台市邢台。○天邊…空のはて。地平線。○漳河…湖北省荊門市を流れる漳河。○絃管…弦楽器と管楽器。○綺羅…女性の美服。○金輿…金で飾った輿。帝王の乗り物。○玉輦…玉で飾った天子の車輿。

【構成】

○「客」の言葉を借りて、自分の詩とする。

○頷聯…遠景。頸聯…近景。○首聯…軽婉。○頷聯…重大。○頸聯…軽く銖に至る。○尾聯…軽婉。

**寒食**

獨把一杯山館中　　　独り 一杯をる 山館の

每驚時節恨飄蓬　　　時節に驚くに を恨む

**侵堦草色連朝雨**　　　を侵す草色 連朝の雨

**滿地梨花昨夜風**　　　地に満つる梨花 昨夜の風

**蜀魄啼來春寂寞**　　　蜀魄 啼き来たりて 春 寂寞

**楚魂吟後月朦朧**　　　楚魂 吟ずる後 月 朦朧

分明記得還家夢　　　分明にす 家に還る夢

徐孺宅前湖水東　　　が 湖水の東

【語釈】

○寒食…冬至から一○五日目。この日と前後の日、三日間は火を使うのを禁じて、火を使わない食事とする習慣があった。○山館…山村の旅館。○飄蓬…よもぎが風に吹かれるような漂泊の身。○侵堦…きざはしにはびこる。○連朝…降り続く。○蜀魄…ホトトギス。○寂寞…しずかで侘しいさま。○楚魂…秦の地に客死した楚の懐王の化した鳥。○朦朧…ぼんやりと薄れるさま。○分明…はっきりと。○徐孺…後漢の徐稺、隠逸の士として知られ「南州居士」と称された。作者と同じ地の出身。○湖水…洪州の東湖。

【構成】

○首聯…軽婉。○頷聯…重大。○頸聯…軽く銖に至る。○尾聯…軽婉。

**四虚**

**隋宮**

紫泉宮殿鎖煙霞　　　の宮殿 にされ

欲取蕪城作帝家　　　を取りて 帝家と作さんと欲す

**玉璽不緣歸日角**　　　 に帰すにらずんば

**錦帆應是到天涯**　　　 に是れ 天涯に到るべし

**于今腐草無螢火**　　　 腐草に 無く

**終古垂楊有暮鴉**　　　 に 有り

地下若逢陳後主　　　地下にて し 陳の後主に逢わば

豈宜重問後庭花　　　に く 重ねて を問うべけんや

【語釈】

○隋宮…隋の煬帝が作った宮殿。○紫泉宮殿…隋の首都長安の宮殿をいう。○煙霞…かすみ。〇蕪城…広陵（揚州の古名）○帝家…皇帝のすまい、つまりみやこ。○玉璽…天子の玉印。〇日角…嶺の左右の骨が角のように突き出ている人相。王者たるべき着がもつという瑞相。○錦帆…豪華な錦織の帆。○天涯…天の果て。○腐草…腐った草。蛍のたねとなると信ぜられた。○終古…いつまでも。○地下…よみの国。○陳後主…南北朝の末期、建廉（今の南京）に都とした陳の亡国の天子陳叔宝のこと。○後庭花…歌曲「玉樹後庭花」。

**馬嵬**

海外徒聞更九州　　　海外 らに聞く 更に九州ありと

他生未卜此生休　　　は未だせず 此の生は休す

**空聞虎旅鳴宵柝**　　　空しく の を鳴らすを聞き

**無復雞人報曉籌**　　　た の を報ずる無し

**此日六軍同駐馬**　　　此の日 同じく馬を駐め

**當時七夕笑牽牛**　　　当時 を笑う

如何四紀爲天子　　　んぞ の天子と為りて

不及盧家有莫愁　　　の 有るに 及ばざるは

【語釈】

○馬蒐…陝西省興平県西方にある地名。楊貴妃が殺された所。〇九州　天下。世界。○他生…今生以外の諸々の世界に生まれかわること。○…考える。確かめる。○休…おしまいになる。○虎旅…宮城及び王事守衛の軍隊。○宵拆…宵塀は宵に就寝を警告する拍子木。○鶏人…官門を警衛し、祭祀の夜、暁を報ずる役目の者。○暁籌…籌は時刻を示す木札。〇六軍…天子の軍隊。○「盧七夕笑牽牛」…玄宗と楊貴妃が七夕に長生殿に於いて、牽牛・織女が一年に一度しか会えないのは、我々の愛に及ばないと笑ったこと。○四紀…一紀は歳星（木星）が天とまわりする期間、十二年。○盧家有美愁…盧家は魏晋時代の北方豪族八姓の一つに数えられる名門。莫愁はいにしえの洛陽の女児の名。梁の武帝衝衍の河中の水の歌）の故事。

**籌筆驛**

魚鳥猶疑畏簡書　　　魚鳥猶お疑う 簡書をるるかと

風雲**長**爲護儲胥　　　風雲 に為に を護る

**徒令上將揮神筆**　　　に 上将をして 神筆をわしめ

**終見降王走傳車**　　　に見る　の伝車を走らすを

**管樂有才終不忝**　　　管楽 才有りて にからず

**關張無命欲何如**　　　関張 無くして 何如せんと欲す

他年錦里經祠廟　　　他年 に をば

梁父吟成恨有餘　　　 成りて 恨み 余り有らん

【語釈】

○籌筆駅…四川省広元県北方にある地名。諸葛亮が討魏の軍を率いて出陣する時、この地に駐屯して作戦をねったと伝えられる。○簡書…簡書は軍中のおきてのかきつけ。○儲胥…木柵と竹槍で作る陣地の守備がき。○上将…総司令官。諸葛亮を指す。○揮神筆…はなはだ秀れた文字、あるいは文章を書くということ。「出師の表」を指す。○降王…蜀の後主劉禅をさす。○走傳車伝車とは、駅伝の馬車のこと。劉禅は降伏後、そうした馬車で洛陽へおくられた。○管楽…管は春秋時代の斉国の賢相、管仲。楽は戦国時代の燕国の卿の楽毅のこと。○関張…関羽と張飛のこと。○他年…今年以外。○錦里…蜀の都、錦官城とよばれ、四川省成都の地名。○祠廟…やしろ。○梁甫吟…山東地方の民謡。諸葛亮ははじめ、河南省南陽の都県に住んでいた。父の玄の死後、亮はみずから隴畝に耕し、好んで梁父吟を作ったと「三国志」の伝にある。

**聞歌　　　　　　歌を聞く**

斂笑凝眸意欲歌　　　笑をめ を凝らして 意 歌わんと欲す

高雲不動碧嵯峨　　　高雲 動かず たり

**銅臺罷望歸何處**  銅台を望むをめ 何れの処にか帰る

**玉輦忘還事幾多**　　　　るを忘るる事 ぞ

**青冢路邊南雁盡**　　　 尽き

**細腰宮裏北人過**　　　 北人 過ぐ

此聲腸斷非今日　　　此の声 腸断するは 今日にらず

香灺燈光奈爾何　　　香灺の灯光 を せん

【語釈】

○嵯峨…山の嶮しく石のごつごつしているさま。○銅台…曹操が河南省臨漳県に建てた銅雀台。○忘還事…宮廷に帰還することを忘れて遊蕩に耽った出来事。○幾多…どれほど。○青冢…王昭君の陵墓をいう。○南雁…南の方の郷里である漢の地に飛んで帰るカリ。故郷への雁信○細腰宮…楚の宮殿。○北人…北方人。○此聲：元、しかるべき地位にあった女性の淪落後の歌声。○腸斷…非常な悲しみを。○非今日…今日だけではない。○香灺…香が燃え尽きる。○奈爾何　あなたをどうしようか。

【構成】

○第三句…魏の曹操のこと。○第四句…隋の煬帝のこと。第五句…王昭君のこと。第六句…楚王のこと。

**茂陵　　　茂陵**

漢家天馬出蒲梢　　　漢家の天馬 を出ず

苜蓿榴花遍近郊　　　の 近郊にし

**内苑只知銜鳳觜**　　　内苑 只だ知る をむを

**屬車無復插雞翹**　　　 た をむ無し

**玉桃偷得憐方朔**　　　 み得て をみ

**金屋妝成貯阿嬌**　　　 い成りて をう

誰料蘇卿老歸國　　　誰からん 老いて国に帰れば

茂陵松栢雨蕭蕭　　　の 雨 たらんとは

【語釈】

○茂陵…漢の武帝のみささぎ。○天馬…天上の馬のような駿足の馬。武帝が大宛国を撃って得た駿馬。○蒲梢…天馬の名。ここでは大宛国。○苜蓿…うまごやし。○榴華…ざくろの花。○内苑…宮御苑。○銜鳳觜…鳳常は、鳳のくちばしから作るという膠。○属車…おともする車。○鶏翹…鳥の羽毛で飾り、鈴をつけた旗。○玉桃…玉のような桃の実。○憐方朔…憐は愛する。方朔は漢の武帝に仕えた文人東方朔。○金屋…美しいやかた。○阿嬌…長公主の娘、後の陳皇后。○蘇卿…漢代の忠臣蘇武。○蕭蕭…ものさびてあわれなるさま。

**早秋****京口旅泊　　　 に旅泊す**

移家避寇逐行舟　　　家を移して を避け をう

厭見南徐江水流　　　見るをう 江水の流るるを

**吳地****征徭非舊日**　　　の 旧日に非らず

**秣陵****凋弊不宜秋**　　　の 秋に宜しからず

**千家閉戶無****砧杵**　　　千家 戶を閉ざして 無く

**七夕何人望斗牛**　　　 何人か を望む

惟有同時驄馬客　　　惟だ 同時に の客の

偏題尺牘問窮愁　　　えに を題して を問う有るのみ

【語釈】

○京口…江蘇省鎮江市。○寇…揚州の刺史劉展の反乱。○南徐…江蘇省鎮江市のこと。○江水…長江。○吳地…江蘇省一帯。特に蘇州。○征徭…租税と賦役。○秣陵…金陵（南京）。○凋弊…衰え疲れる。○砧杵…砧と杵。その音。○斗牛…北斗星と牽牛星。○驄馬客…驄馬はおあ馬。作者の安否を尋ねてきた蒋侍御（不祥）を言う。○尺牘…短い手紙。○窮愁…貧窮して困り愁うこと。

（乱を避けて江蘇省に逃れた作者に対して、蒋侍御が安否を問う手紙をくれ、それに感謝し感慨を述べたもの）

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**晚次鄂州　　　　ににる**

雲開遠見漢陽城　　　雲開けて 遠く見る 漢陽城

猶是孤帆一日程　　　猶お 是れ 一日の

**估客晝眠知浪靜**　　　 昼に眠り 浪の静かなるを知り

**舟人夜語覺潮生**　　　舟人 夜に語りて の生ずるを覚ゆ

**三湘愁鬢逢秋色**　　　の 秋色に逢い

**萬里歸心對月明**　　　万里の帰心 に対す

舊業已隨征戰盡　　　 已に 征戦に従いて尽く

更堪江上鼓鼙聲　　　更に 堪えんや 江上 の声に

【語釈】

○次…やどる、船泊する。○鄂州…湖北省武漢市武昌。○漢陽城…武漢の漢陽の町。○估客…旅の商人。○舟人…船頭。○三湘…湖南省洞庭湖の南北、及び湘江流域一帯。○愁鬢…愁いの為に白くなった髪の毛。○秋色…秋景色。○萬里歸心…遠い故郷に帰りたい気持ち。○舊業…古くからの我が家の財産。○鼓鼙…戦中に馬上で打ち鳴らす攻め太鼓。（唐詩三百首）

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**赴武陵寒食次松滋渡　にき寒食ににる**

杏花楡莢曉風前　　　 の前

雲際離離上峽船　　　にたり　を上る船

**江轉數程淹****驛騎**　　　江は転じて 数程　駅騎をむれば

**楚曾三戸少人煙**　　　楚は曽て 三戸にして 人煙 なり

**看春又過清明節**　　　春を看て 又 清明節を過ぎ

**算老重經癸巳年**　　　老を算えて 重ねて 　の年

幸得柱山當郡舍　　　幸に のに当たるを得たり

在朝長詠卜居篇　　　朝に在りて 長く詠ず

【語釈】

○武陵…湖南省常德市。○寒食…冬至から一○五日目。この日と前後の日、三日間は火を使うのを禁じて、火を使わない食事とする習慣があった。○松滋渡…不祥。○楡莢…楡樹の果実。○雲際…雲のあるきわ。高いところ。○離離…連続しているさま。○驛騎…宿場町の乗り継ぎの馬の騎手。○楚曾三戸…楚の南公の言葉「楚三戸と雖も、秦を滅ぼすものは、必ず楚ならん」。○淸明節…春分より十五日目。○重經…歳六十一。○柱山…湖南省常德市柱山。作者は朗州（湖南省常徳市）の刺史であった。○郡舍…官舎。○卜居篇…居を定める歌。屈原が卜居詩を作ったことに倣う。

【構成】

○前半景、後半情。

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**鄂州寓嚴澗宅　　　にて厳澗の宅に寓す**

鳳有高梧鶴有松　　　に高梧有り 鶴に松有り

偶來江外寄行踪　　　たま 江外に来たりてをす

**花枝滿院空啼鳥**　　　は院に満ちて 空しく啼く鳥

**塵榻無人憶臥龍**　　　は人無くして を憶う

**心想夜閑唯足夢**　　　心に想う 夜 閑かにして　唯だ 夢みるに ると

**眼看春盡不相逢**　　　眼は 春の尽くるを看て わず

何時最是思君處　　　何れの時か 最も是れ 君を思う処

月入斜窗曉寺鐘　　　月は斜窓に入る の鐘

【語釈】

○鄂州…武昌（湖北省武澆市）。○餃澗…未詳、鄂州で鰕澗の家に宿泊したときの作、主人の鮟澗はたまたま不在であった。○高梧…あおぎり。○行踪…足跡、行方。○塵榻…塵にまみれた寝椅子。○臥龍…隠れ住む龍、高潔な隠者、厳澗のこと。是…be動詞にあたり「コレ」と訓読する。

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**九日齊山登高　　　九日 に登高す**

江涵秋影鴈初飛　　　江は秋影をして 初めて飛ぶ

與客攜壺上翠微　　　と壺を携えて に上る

**塵世難逢****開口笑**　　　 逢い難し 口を開いて笑うに

**菊花須插滿頭歸**　　　菊花 らく にして帰るべし

**但將酩酊酬佳節**　　　但だ　に　して　にい

**不用登臨怨落暉**　　　用いず して を怨むを

古往今來只如此　　　 只だくの如し

牛山何必獨霑衣　　　牛山 何ぞ 必ずしも 独り 衣をさん

【語釈】

○九日…陰暦九月九日の重陽の日。○齊山…江州と南京の中間点で、長江南岸の東南３キロメートルのところにある。○登高…九月九日の重陽の日の風習で、高い山に登り、家族を思い、菊酒を飲んで厄災を払う習わし。○江…長江のこと。○涵…水にひたす。○秋影…秋げしき。○翠微…山の八合目あたり。○塵世…俗世間。○開口笑…『荘子』の盗跖の言。○菊花…邪気を祓うとされるキクの花。○滿頭…頭いっぱいに。○酩酊…ひどく酔う。佳節…おめでたい日。○登臨…山に登り水に臨む。○落暉…落日、沈む夕日の輝き。○古往今來…昔から今まで。○牛山…現・山東省臨淄県の南にある山。（『韓詩外傳』の齊の景公の故事）

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**贈王尊師　　　に贈る**

先生自說瀛洲路　　　先生 ら説く の

多在青松白石間　　　多くは の間に在りと

**海岸夜中常見日**　　　海岸 夜中 常に日を見

**仙宮深處却無山**　　　仙宮 深き処 却って 山無し

**犬隨鶴去遊諸洞**　　　犬は 鶴に随いて去りて 諸洞に遊び

**龍作人來問大還**　　　龍は 人とり来りて を問う

今日偶聞塵外事　　　今日 たま聞く 塵外の事

朝簪未擲復何顏　　　 未だ たず た 何んのせぞ

【語釈】

○王尊師…不詳。尊師は道士の敬称。○瀛洲…海中の仙山、三神山(蓬莱、方丈、瀛洲)のひとつ。○仙宮…仙人の宮殿。○大還…仙薬を作る方法の一つ。○塵外…俗世間を離れた所。○朝簪…官位を示す冠を止めるピン。

【構成】

○首聯、頷聯、頸聯は、王尊師のことを述べる。尾聯は自分の情を述べる。

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**贈****王山人　　　　に贈る**

貰酒攜琴訪我頻　　　酒をり 琴を携えて 我を訪れること りなり

始知城市有閑人　　　始めて知る 城市に 有るを

**君臣藥在寧憂病**　　　君臣　薬在りぞに病をえん

**子母錢成豈患貧**　　　子母　銭成りて に貧をえん

**年長每****勞推甲子**　　　年 長じて に を推すを労し

**夜寒初共守庚申**　　　夜 寒くして 初めて 共に を守る

近來聞說燒丹處　　　近来 く を焼く処

玉洞桃花萬樹春　　　玉洞の桃花 万樹の春なりと

【語釈】

○王山人…不祥、山人は隠者。○貰…酒をツケで買うこと。○閑人…余裕ある人。○君臣藥在…あらゆる薬が揃っていること。○子母錢成…『捜神季記』の記事。使うと戻ってくるので何時までも使える。○勞推甲子…年齢を尋ねられたときに、答えるのに苦労する。○守庚申…庚申の日に眠らないでいること。庚申待。○聞説…聞くところによれば。○丹…仙薬。仙人が作るもの。○玉洞…仙人の住む洞。王山人の居を言う。

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

湘中送友人　　　に友人を送る

中流欲暮見湘煙　　　中流 暮んと欲して を見る

**岸葦**無窮接楚田　　　 窮まり無くして に接す

**去雁遠衝****雲夢雪**　　　 遠くく の雪

**離人獨上洞庭船**　　　 独り登る 洞庭の船

**風波盡日依山轉**　　　風波 尽日 山に依りて転じ

**星漢通宵向水連**　　　 水に向って連なる

零落梅花過殘臘　　　せる梅花 を過ぎ

故園歸去醉新年　　　故園に帰り去りて 新年に酔わん

【語釈】

○湘中…洞庭湖の南、湘江の流域。○湘煙…湘江にかかる靄。○楚田…楚の地の田。○雲夢…湖北省安陸県の南にあった沼沢。○離人…離れていく友人。○星漢…銀河。○通宵…一晩中。○零落…草木が枯れて落ちること。○殘臘…陰暦十二月。

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**元達人上人種藥　　　を種ゆ**

雨滌煙鋤偃破籬　　　雨にぎ 煙にき にす

紺牙紅甲兩三畦

**藥名却笑桐君少**　　　薬名 却って 笑う の少きを

**年紀翻嫌竹祖低**　　　年紀 って う の低きを

**白石淨敲蒸****朮火**　　　白石 くく をす火

**清泉閑洗種花泥**　　　清泉 に洗う 花を種うる泥

怪來昨日休持鉢　　　怪しみ来たる 昨日鉢を持つを休むるを

一尺雕胡似掌齊　　　一尺の のしきに似たり

【語釈】

○元達人上人…不祥。○偃…伏せる、寝転ぶ。○破籬…壊れたまがき。○紺牙…紺色の芽。○紅甲…紅色の芽。○畦…五十畝。○桐君…黃帝 時の医師で浙江省桐廬県の東山で桐樹の下に廬を結んで薬草を採った。その「薬草目録」を言う。○年紀…年齢。○竹祖…『漢武帝内傳』封君達と言う人物が水銀を飲んで、百余歳で故郷に帰ったが二十歳の人のように見て、青牛に乗り、竹管の薬をもって人々を救ったので竹祖と呼ばれた。○朮…薬名。○持鉢…托鉢する。○雕胡…まこも。

【構成】

○前聯は虚実相兼ねる。語は実であって意は虚である。

**前虚後実**

**黃鶴樓**

昔人已乘黃鶴去　　　 已に に乗じて去り

此地空餘黃鶴樓　　　此の地 空しく余す

**黃鶴一去不復返**　　　 一たび去りて た返らず

**白雲千載空悠悠**　　　白雲 千載 空しく悠々

**晴川歷歷漢陽樹**　　　晴川 たり の樹

**芳草萋萋鸚鵡洲**　　　芳草 たりの洲

日暮鄉關何處是　　　 何れの処か是れなる

煙波江上使人愁　　　煙波 江上 人をして 愁えしむ

【語釈】

○昔人…昔の人、ここでは辛氏の酒屋を訪れた仙人を指す。○空… ただ～だけ。ただ～ばかり。○余…残っている。○千載…千年。○悠悠…ゆったりとのどかにしているさま。○晴川…晴れ渡った長江の流れ。歴歴…はっきりと見えるさま。○漢陽…長江をはさんで、武昌の対岸にある町。○芳草…香りのよい草花。○萋萋…草が盛んに茂っているさま。○鸚鵡洲…湖北省武漢市武昌区黄鵠磯の西、長江の中にある中洲。○日暮…日暮れ。○郷関…ふるさと。○何処是…どの辺りがそれ（故郷）だろうか。○煙波…もやの立ちこめた水面。○江上… 長江のほとり。使人愁…私の胸に、望郷の思いを起こさせる。

（唐詩選）

**自****蘇臺至****望亭驛人家盡空　りに至りる。人家く空し**

南浦菰蒲覆白蘋　　　の を覆う

東呉黎庶逐黃巾　　　の にわる

**野棠自發空流水**　　　 ら発き 空しく水に流れ

**江燕初歸不見人**　　　 初めて帰りて 人を見ず

**遠樹依依如送客**　　　遠樹 としてを送るが如く

**平田****渺渺獨傷春**　　　 として 独り春を傷む

那堪回首長洲苑　　　んぞ堪えんや を長洲の苑にすに

烽火年年報虜塵　　　 を報ず

【語釈】

○蘇臺…姑蘇台、蘇州西南にあり、呉の宮殿のあったところ。○望亭驛…不祥。○南浦…江西省南昌県の西南の地名。○菰蒲…まこも。○

白蘋…白いテンジソウ。○東呉…蘇州。○黎庶…庶民。○黃巾…反乱軍、黄巾の乱を仮託したもの。○野棠…野生の海棠。○江燕…水辺にいる燕。○依依…細くなよなよとしているさま。○渺渺…広く果てしないさま。○長洲苑…姑蘇の南、太湖の北にある景勝の地。○烽火…のろし火。○虜塵…反乱者の侵寇。

（粛宗の時に、劉辰・張景が乱を起こし、浙江省の西部を荒らしたときの作）

**與僧話舊　　　　　僧と旧をる**

巾舃同時下翠微　　　 同時に を下る

舊遊因話事多違　　　旧遊 話るにりて 事多くう

**南朝古寺幾僧在**　　　南朝の古寺 幾僧か在る

**西嶺空林唯鳥歸**　　　西嶺の空林 唯だ鳥のみ帰る

**莎徑****晚煙凝竹塢** の晚煙 に凝り

**石池春水染苔衣**　　　の春水 を染む

此時相見又相別　　　此の時 相見て 又相別る

即是關河朔鴈飛　　　即ち是れ 飛ぶ

【語釈】

○巾舃…頭巾と二枚底の履、身辺を言う。○翠微…緑の山の中腹。○舊遊…昔の友達。○空林…人気の無い寂しい山。○莎徑…ハマスゲの茂った道。○晚煙…ゆうもや。○竹塢…高いところにある竹藪。○苔衣…苔。○關河…関山と河川。○朔鴈…北方の雁、北に帰る雁。

**長洲懷古**

野燒空原盡荻灰　　　 く

呉王此地有樓臺　　　呉王 此の地に 楼台有り

**千年事往人何在**　　　千年の事きて　人何くにか在る

**半夜月明潮自來**　　　半夜 月明かにして 自ら来たる

**白鳥影從****江樹沒**　　　白鳥 影は 江樹に従いて沒し

**清猿聲入楚雲哀**　　　　声は楚雲に入りて哀しむ

停車日晚薦蘋藻　　　車をめ 日は晚れて をむれば

風靜寒塘花正開　　　風は静かにして 花 に開く

【語釈】

○長洲…江蘇省蘇州市西南にある。吳王闔閭の遊苑。○野燒…野火が焼き尽くす。○空原…何もない野原。○荻灰…廬荻の焼けた灰。○呉王…闔閭。○江樹…川辺の樹木。○清猿…清い猿の声。○楚雲…楚の地の雲。○蘋藻…かたばみ。粗末な捧げ物として用いる。○寒塘…寒々とした堤。

**煬帝行宮　　　　の**

此地曾經翠輦過　　　此の地 曽て たり の過ぐるを

浮雲流水竟如何　　　浮雲 流水 に

**香銷南國美人盡**　　　香は南国にして 美人 尽き

**怨入東風芳草多**　　　怨みは東風に入りて 芳草 多し

**殘柳宮前空露葉**　　　 宮前に 空しく

**夕陽****江上浩****煙波**　　　 に し

行人遙起廣陵思　　　 遙かに起こす の思

古渡月明聞棹歌　　　 月 明かにしてを聞く

【語釈】

○翠輦…緑色に塗った天子の手車。○殘柳…煬帝が植えさせた柳の木で、残っている物。○煙波…水上にかかる靄。○江上…長江の上。江都（可南府）の長江の上。○行人…旅人。○廣陵…揚州、煬帝が殺され墓のあるところ。○廣陵思…晉の嵇中散は斬られるとき、広陵秘曲を奏したこと。○棹歌…舟歌。

**經故丁補闕郊居 　　　がを**

死**酬**知己道終全　　　死して知己に酬い 道 に全し

波暖孤冰且自堅　　　波 暖にして おらし

**鵩上承塵纔一日**　　　はに上りて かに一日

**鶴歸華表已千年**　　　鶴はに帰りて 已に千年

**風吹藥蔓迷樵徑**　　　風はを吹いて を迷わせ

**水暗蘆花失釣船**　　　水はに暗くして を失う

四尺孤墳何處是　　　の孤墳 何れの処か是れなる

闔閭城外草連天　　　 草 天に連なる

【語釈】

○丁補闕…不祥。○「死酬知己」…『史記』「刺客列伝」。○孤冰…一つだけの氷。○鵩…みみずく。○塵纔…水草の模様を画いた天井。○「鵩上承塵」…『捜神記』。○華表…日本の鳥居のようなもの。○鶴歸華表」…丁令威が鶴に化して華表に帰った。○藥蔓…薬草のつる。○樵徑…樵の通るような細道。○闔閭城…蘇州。

【構成】

○前半は丁補闕のことを述べ、後半は今見る郊居の叙景を述べる。

**贈蕭兵曹　　　に贈る**

廣陵堤上昔離居　　　 昔 す

帆轉瀟湘萬里餘　　　帆はに転ず

**楚澤病時無鵩鳥**　　　 病む時 無く

**越郷****歸去有鱸魚**　　　越郷 帰り去りて 鱸魚有り

**潮生水國蒹葭響**　　　潮は水国に生じて 響き

**雨過山城橘柚疎**　　　雨は山城を過ぎて　 なり

聞說攜琴兼載酒　　　く 琴を携え 兼ねて酒を載すと

邑人爭識馬相如　　　 か を らんや

【語釈】

○蕭兵曹…不祥。○廣陵…江蘇省揚州市。○瀟湘…洞庭湖の南の地方で、瀟水と湘水が合流する地の一帯。○楚澤…瀟湘の地帯。○病時…屈原のような病。○鵩鳥…みみずく。漢の買誼が鵩で占いをたて、その通り忽ち死んだ故事による。○越郷…故郷の揚州。○歸去有鱸魚…晉の張翰の故事による。○蒹葭…オギとアシ。○橘柚…タチバナとユズ。○邑人…村人。○馬相如…司馬相如、蕭兵曹をたとえて言う。

**酬張芬****赦後見寄　　　がに寄せらるるにゆ**

紫鳳朝銜五色書　　　 朝よりむ 五色の書

陽春忽布網羅除　　　陽春 ちいて 除かる

**已將心變寒灰後**　　　已に 心はの後に 変ずるをって

**豈料光生腐草餘**　　　に 料らんや は の余に生ぜんとは

**建水風煙收客淚**　　　の風煙 を收め

**杜陵花竹夢郊居**　　　の花竹 を夢めむ

勞君故有詩**人**贈　　　君を労して に 詩人の贈あり

欲報瓊瑤**愧**不如　　　にいんと欲して 如しからざるをず

【語釈】

○張芬…不祥。○赦後…司空曙が長沙に託せられていたときに、大赦があり、長安に帰る事になった後。○紫鳳…木で作った鳳。○「朝銜五色書」…後趙の石虎が、罪人赦免についての詔書を五色の紙を用いて木鳳の口に含ませて頒布した故事。○陽春…生き返るの意味。○網羅…法の網の喩え。○寒灰…火の無い灰。冷灰。○光生…恩光。○腐草…腐った草のような流謫の身。○建水…広東省雲浮市羅定市。○風煙…風と靄。○杜陵…長安の東南の地名。○郊居…郊外の住まい。○

瓊瑤…美玉、ここでは酬張から贈られた詩。

【構成】

○首聯・頷聯・頸聯は自分の思いを述べ、尾聯は張に報いることを述べる。

**答****竇拾遺臥病見寄　　が病に臥して寄せらるに答ゆ**

今春扶病移滄海　　　今春 をけ に移り

幾度承恩對白花　　　か 恩をけ 白花に対す

**送客屢聞****簷外鵲**　　　客を送りて しば聞く の

**銷愁已辨****酒中虵**　　　愁をして 已に弁ず 酒中の

**瓶収****枸杞懸泉水**　　　瓶には の水を収め

**鼎鍊芙蓉伏火砂**　　　には の 砂をる

誤入塵埃牽吏役　　　誤って に入り にかる

羞將簿領到君家　　　恥ずらくは をって 君が家に到しを

【語釈】

○竇拾遺…徳宗の時に左拾遺であった竇羣。○滄海…大海、ここでは江東。○承恩…竇羣から恩を受けた。○簷外鵲…『世説新語』烏雀騒いで行人至る。○酒中虵…『晋書』」「楽廣傳」病が快方にに向かっていることを言う。○枸杞…なす科の植物、薬草、根と葉を薬草にする。○懸泉…滝の水。○「枸杞懸泉水」…『續神仙傳』。○「鍊芙蓉伏火砂」…芙蓉砂というものを処理して仙薬を作る。○塵埃…俗世間。○役人。○簿領…帳簿

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**寄****樂天　　　 楽天に寄す**

榮辱升沈影與身　　　 影と身と

世情誰是舊雷陳　　　 だ 是れ

**唯應****鮑叔猶憐我**　　　だ に 猶お 我を憐むべし

**自保****曾參不殺人**　　　ら保す 曾參が人を殺さざることを

**山入****白樓沙苑暮**　　　山は白楼に入る の暮

**潮生****滄海****野塘春**　　　はに生ず の春

老逢佳景唯惆悵　　　老いて に逢いて 唯だ す

兩地各傷無限神　　　 おの 傷ましむ 無限の

【語釈】

○樂天…白居易。○榮辱…毀誉褒貶。○榮辱…栄えることと衰えること。○影與身…影が身に従うこと。○雷陳…雷義と陳重との節の固い交わり。○鮑叔…管鮑の交わりを言う。○曾參不殺人…「曾參人を殺す」『戦国策　秦策上』無実の罪を負ったこと。○白樓…同州（陝西省渭南市）にあった高殿。○沙苑…同州の砂浜。○暮…夕暮れ。○滄海…青海。○野塘…野原の堤。○惆悵…悲しみもだえる。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**秋居病中　　　　秋居の病中**

幽居悄悄何人到　　　 として か到らん

落日清涼滿樹梢　　　落日 清涼として に満つ

**新句有時愁裏得**　　　新句 時に有りて に得

**古方無效病來拋**　　　 效無くして つ

**荒簷數蝶懸蛛網**　　　の に懸かり

**空屋孤螢入燕巢**　　　の に入る

獨臥南窗秋色晚　　　独り 南窓に臥す 秋色の

一庭紅葉掩衡茅　　　一庭の紅葉 をう

【語釈】

○幽居…人里離れたわび住まい。○悄悄…ひっそりとして物音のしないさま。○清涼…清くて清々しいさま。○樹梢…木のこずえ。○新句…新しい詩。○愁裏…愁いのうち。○古方…古い処方の薬。○病來…病気になってから。○荒簷…荒れたのきば。○蛛網…蜘蛛の巣。○秋色…秋景色。○衡…冠木門、上に横木を渡しただけの粗末な門。○茅…茅葺きの粗末な家。

【構成】

○典型的な交股格の詩である。首聯と尾聯で一絶をなし、頷聯、頸聯で一絶をなす。

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**送崔約下第歸揚州　　がしてに帰るを送る**

滿座詩人吟送酒　　　満座の詩人 吟じて酒を送る

離城此會亦應稀　　　城を離るる此の会 たになるべし

**春風下第時稱屈**　　　春風に下第して時につと称し

**秋卷呈親自束歸**　　　 親にせんとして　らねて帰る

**日晚山花當馬落**　　　日は晚れて 山花 馬に当って落ち

**天陰水鳥傍船飛**　　　天は陰りて 水鳥 船に傍いて飛ぶ

江邊道路多苔蘚　　　江辺 道路 苔蘚 多し

塵土無由得上衣　　　塵土 由し無し 衣に上るを得るに

【語釈】

○崔約…不詳。○下第…科挙に落第すること。○揚州…江蘇省揚州市。○時稱屈…(世の人は)不当さを取りざたする。○秋卷…秋に取りまとめた作品。○苔蘚…こけ。○無由…てがかりがない。○上衣…(舞い上がって)衣に着く。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**旅館書懷　　　　旅館にてを書す**

忽看庭樹換風煙　　　忽ち看る　庭樹の 風煙を換うるを

兄弟飄零寄海邊　　　兄弟 して　海辺に寄す

**客計倦行分陝路**　　　客計 行に倦む 分陝の路

**家貧休種汶陽田**　　　家貧しくして 種うるをむ の田

**雲低遠塞鳴寒鴈**　　　雲はにれて 鳴き

**雨歇空山噪暮蟬**　　　雨は空山にんで ぐ

落葉蟲絲滿窗戶　　　落葉 窓戶に満つ

秋堂獨坐思悠然　　　秋堂に独坐して いは悠然たり

【語釈】

○庭樹換風煙…庭の木のあたりの風も靄も（季節が変わって）すっかり変わってしまった。○飄零…漂泊と零落、おちぶれて彷徨うさま。○客計…旅の計画。○分陝…陝州、今の河南省陝県。○汶陽…山東省寧陽県（作者の出身地？）。○遠塞…遠くの寨。○空山…葉の落ちた人気の無い山。○窗戶…窓。○悠然…遙かなさま、憂鬱な物思い。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**頴州客舍　　　　の**

素琴孤劒尚閑遊　　　 お す

誰共芳尊話唱酬　　　誰と共にか を話って せん

**郷夢有時生枕上**　　　 時有りて に生じ

**客情終日在眉頭**　　　 日終るとき に在り

**雲拖雨脚連天去**　　　雲は をいて 天にって去り

**樹夾河聲繞郡流**　　　樹は をんで 郡をりて流る

回首帝京歸未得　　　首を帝京にらせども　帰ること 未だ得ず

不堪吟倚夕陽樓　　　堪えず 吟じつつ 夕陽の楼にるに

【語釈】

○頴州…河南省汝陰郡。○客舎…旅館。○素琴…飾りのない琴。○閑遊…あてどな旅。○芳尊…良い酒。○唱酬…詩を互いに贈答する。○鄉夢…故郷の夢。○客情…旅の愁いの情。○眉頭…眉の上。○拖…伴う。○帝京…長安の都。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**春日長安即事　　　 長安即事**

一百五日又欲來　　　一百五日 又 来たらんと欲す

梨花梅花參差開　　　梨花 梅花 として開く

**行人自笑不歸去**　　　行人 ら笑う 帰り去らざるを

**瘦馬獨吟真可哀**　　　に 独り吟じて 真に哀れむべし

**杏酪漸香鄰舍粥**　　　 くし の

**榆煙將變舊爐灰**　　　 に変ぜんとす 旧炉の灰

玉樓春煖笙歌夜　　　玉楼 春暖かなり の夜

肯信愁腸日九迴　　　えて信ぜんや の 日にするを

【語釈】

○一百五日…寒食の日(冬至から数えて百五日目)。○參差…入り乱れるさま。○行人…旅人。○瘦馬…やせ馬(に乗っている作者)。○杏酪…杏の種を粉末にして飴を加えてとろりとさせたもの、寒食の終わった日に粥にして食べる。○榆煙…寒食が終わった後、楡の木に灯された火の煙。○玉樓…美しい楼台。○簫歌…笙の調べと歌声。○愁腸日九迴…調が一日に九回ねじれるような深い憂い。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**江際**

杳杳漁舟破暝煙　　　たる漁舟 を破る

疎疎蘆葦舊江天　　　たる の天

**那堪****流落逢****搖落**　　　んぞ堪えん して に逢うに

**可得****潸然是偶然**　　　得べけんや 是れ 偶然なるを

**萬頃白波****迷宿鷺**　　　の を迷わせ

**一林黃葉送秋蟬**　　　一林の黃葉 を送る

兵車未息年華促　　　兵車 未だまず る

早晚閑吟向滻川　　　早晚 して に向わん

【語釈】

○江際…江蘇省揚州市。○杳杳…遠く遙かなさま。○暝煙…遙かな水上の靄。○疎疎…まばらなさま。○蘆葦…アシとヨシ。○流落…落ちぶれて流浪すること。○搖落…木の葉が枯れ落ちること。○潸然…涙の流れおちるさま。さめざめ。○迷宿鷺…鷺も白く波も白いので宿る所に迷う。○萬頃…非常に広いこと。一頃は百畝。○兵車…黄巣の乱。○年華…春の光。ここでは新年。○滻川…長安を流れる川。ここでは長安のこと。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**中年　　　　中年**

漠漠秦雲淡淡天　　　たる たる天

新年景象入中年　　　新年の景象 中年に入る

**情多最恨花無語**　　　 多くして 最も恨む 花に語無きを

**愁破方知酒有權**　　　愁い 破れて に知る 酒に権有るを

**苔色滿牆思故第**　　　 に満ちて を思い

**雨聲入夜憶春田**　　　雨声 夜に入って をう

衰遲自喜添詩學　　　 ら喜ぶ 詩学を添うるを

更把前題改數聯　　　更に 前題を把りて 数聯を改む

【語釈】

○中年…五十歳。○漠漠…果てしなく広がるさま。○秦雲…長安方面にかかる雲。○淡淡…うっすらとしたさま。○情…物に感ずる感受性。無語…言葉を理解しない。方…やっと、始めて。○權…うわべだけの力。○故第…元の屋敷。○春田…春になって耕作に取りかかること。○衰遲…何もし得ないまま老衰してしまうこと。○前題…前に作った詩。

【構成】

○首聯・頷聯は情想を述べ、頸聯、尾聯は感興を述べる。

**秋日東郊作　　　　の作**

閑看秋水心無事　　　かに を看て 心 無事なり

臥對寒松手自栽　　　して に対して 手 ら栽ゆ

**廬岳高僧留偈別**　　　の高僧 偈を留めて別れ

**茅山道士寄書來**　　　の道士 書を寄せて来たる

**燕知社日辭巢去**　　　燕は社日を知りて 巣を辞して去り

**菊爲重陽冒雨開**　　　菊は重陽の為に 雨をして開く

淺薄將何稱獻納　　　 何をって と称せん

臨岐終日自徘徊　　　岐に臨みて 終日 自ら徘徊す

【語釈】

○東郊…東の郊外の野原。○閑…のんびりとしたさま。○廬嶽…廬山。江西省九江の南にある山，名刹、東林山がある（ここでは、高僧に付いての修飾語）。○茅山…江蘇省句容県の南にある山、ここでは、道士についての修飾語。まる○社日…土地の神を祭る日、春社、秋社の二回がある。○獻納…補闕、拾遺の官にあるもの。○臨岐…分かれ道にくる、如何にすべきかまようこと。

【構成】

○前聯は専ら情思いを述べ、後聯は景物を略徐し、結句に於いて情思を述べたもの。

**過乘如禪師蕭居士嵩丘蘭若　　　・がのにぎらる**

無着天親弟與兄　　　 とと

嵩丘蘭若一峰晴　　　の一 峰 晴る

**食隨鳴磬巢烏下**　　　食はに随いて 下り

**行踏空林落葉聲**　　　は空林を踏みて 落葉 声あり

**迸水定侵香案濕**　　　は定めて を侵して 湿い

**雨花應共石牀平**　　　は に と共に 平かなるべし

深洞長松何所有　　　の 何の有る所ぞ

儼然天竺古先生　　　たり の

【語釈】

○乗如禅師・蕭居士…不祥。○嵩丘…嵩山、中国河南省登封市にある山岳群、五岳のひとつ。○蘭若…寺院のこと。○鳴磬…石の板。食事などの合図に打ち鳴らす。○巣烏下…巣にいる烏が下りて来る。○空林…ひとけのない林。○迸水…ほとばしり出る水。○香案…香炉をのせておく机。○雨花…雨のように降る花。○石牀…石でつくった寝台。

○何所有…その下に何があるか。○儼然…さながら、そっくり。

○天竺古先生…釈迦如来のこと。

（唐詩選）

【構成】

○前聯は専ら情思いを述べ、後聯は景物を略徐し、結句に於いて情思を述べたもの。

**送友人遊江南　　　　友人の江南に遊ぶを送る**

遠別悠悠白髮新　　　遠別 として 白髮新たなり  
江潭何處是通津　　　 何れの処か 是れ

**潮聲偏懼初來客**　　　 えにれしむ の

**海味唯甘久住人**　　　 唯だ甘し の人

**漠漠煙光前浦晚**　　　たる の

**青青草色定山春**　　　青々たる草色 定山の春

汀洲更有南迴雁　　　 更にの雁有り

亂起聯翩北向秦　　　乱れち として北のかた秦に向う

【語釈】

○江南…浙江省、江蘇省一帯。○悠悠…遠く遙かなさま。○江潭…江は浙江省、潭は潭州（湖南省長沙市一帯）。○通津…四方八方に繋がっている渡し場。○漠漠…広々として果てしないさま。○煙光…雲、霞、霧等の様子。○定山…浙江省杭州市にある山。○汀洲…中洲。○

聯翩…鳥の連なって飛ぶさま。○秦…長安。

【構成】

○前聯は専ら情思いを述べ、後聯は景物を略徐し、結句に於いて情思を述べたもの。

**送別友人　　　友人に送別す**

獨向山中覓紫芝　　　独り 山中にいて をむ

山人勾引住多時　　　山人 勾引して すること 多時なり

**摘花浸酒春愁盡**　　　花を摘み 酒に浸せば 尽き

**燒竹煎茶夜臥遲**　　　竹を燒き 茶をじて 夜 すること遅し

**泉落林梢多碎滴**　　　泉はに落ちて 多く

**松生石底足旁枝**　　　松は石底に生じて 足る

問明朝却欲歸城　　　明朝 却って 城市に帰らんと欲す

市我來期總不知 我にを問えども 総て知らず

【語釈】

○紫芝…ひじりだけ、薬草のひとつ。○山人…山に住む隠者。勾引…引き留める。○多時…しばらく。夜臥遲…(語り合って)夜寝るのが遅い。○林梢…林の梢。○碎滴…砕けた滴、しぶき。○旁枝…脇から出た枝。○却…それにもかかわらず。○來期…再来の時。

【構成】

○前聯は専ら情思いを述べ、後聯は景物を略徐し、結句に於いて情思を述べたもの。

**嶺南道中　　　　　　の道中**

嶺水爭分路轉迷　　　 争い分かれて 路 た迷う

桄榔椰葉暗蠻溪　　　 に暗し

**愁衝毒霧逢****蛇草**　　　毒霧をいて愁いて に逢い

**畏落****沙蟲避燕泥**　　　の落ちることをれて を避く

**五月畬田收火米**　　　五月の 火米を收む

**三更津吏報潮雞**　　　三更 を報ず

不堪腸斷思郷處　　　　に堪えず 郷を思う処

紅槿花中越鳥啼　　　 く

【語釈】

○嶺南…広東省一帯。○桄榔…植物の名、タガヤサン。○椰葉…ヤシ。○蠻溪…南方の野蛮な国の渓。○毒霧…瘴気。○蛇草…毒蛇に噛まれたような有毒の草。○沙蟲…小さな毒虫の一種。○燕泥…巣作りの泥を銜えた燕。○畬田…新しく開いた田。○火米…草を焼いて作った米。陸稲。○三更…真夜中。○津吏…港を守る官吏。○潮雞…船が出帆したこと。○腸斷…深い悲しみ。○紅槿花…むくげの花。○越鳥…シャコ。

【構成】

○前聯は専ら情思いを述べ、後聯は景物を略徐し、結句に於いて情思を述べたもの。

**病起　　　　よりつ**

春初一臥到秋深　　　 一たびして 秋の深きに到る

不見紅芳與綠陰　　　見ず とと

**窗下展書難久讀**　　　に書をべて　久しくは読むこと難く

**池邊扶杖欲閑吟**　　　池辺に杖にけられて 閑かに吟ぜんと欲す

**藕穿平地生荷葉**　　　は平地をちて を生じ

**笋過東家作竹林**　　　は東家を過ぎて と作る

在舍渾如遠郷客　　　に在りて べて のの如く

詩僧酒伴鎮相尋　　　詩僧　酒を伴いて に相尋ぬ

【語釈】

○紅芳…紅い花。○鎮…つねづねに。

【構成】

○前聯は専ら情思いを述べ、後聯は景物を略徐し、結句に於いて情思を述べたもの。

**送****李錄事赴饒州　　　がにくを送る**

北人南去雪紛紛　　　北人 南に去りて 雪

雁**過**汀洲不可聞　　　雁はを過ぎて 聞くべかず

**積水長天隨****逐客**　　　 にい

**荒城****極浦足寒雲**　　　荒城 寒雲足る

**山從****建業千峰出**　　　山はに従いて 千峰 出で

**江至潯陽九派分**　　　江はに至りて 九派 分かる

借問督郵纔弱冠　　　す に弱冠

府中年少不如君　　　府中の年少 君にかじ

【語釈】

○李錄事…不祥。○饒州…江西省上饒市鄱陽県。○北人…李錄事のこと。○紛紛…乱れ飛び散るさま。○汀洲…中洲。○積水…大江。○長天…広大な空。○逐客…左遷された人。○極浦…遠方の浦。遙かに続く浦。○建業…南京。○潯陽…江西省九江市。○督郵…郡吏で郡長の部下に属する官人。○府中…政庁の所在地。

**清明日與友人遊玉塘莊　清明の日 友人とに遊ぶ**

幾宿春山共陸郎　　　幾たびか 春山に宿り 陸郎と共にす

清明時節好風光　　　清明の時節 好風光

**細穿****綠荇船頭滑**　　　をして 滑かに

**砕踏****殘****花****屐齒香**　　　をして し

**風急嶺雲飄****迥野**　　　風 急にして にり

**雨餘山水落方塘**　　　の 山水 に落つ

不堪吟罷東回首　　　堪えず 吟じ罷みて 東にをらすに

滿耳蛙聲正夕陽　　　耳に満つる に

【語釈】

○清明…清明節。春分から数えて十五日目。○玉塘莊…不祥。○陸郎…友人を陸機（三国時代の呉から西晋にかけての政治家・文学者・武将。）になぞらえた。○風光…風景。○綠荇…緑色の浮き草。○殘花…地に落ちている花。○屐齒…靴底の歯。○迥野…遠く広く広がる原野。○雨餘…雨上がり。○方塘…四角な堤。

**宿****淮浦寄司空曙　　　にりてに寄す**

愁心一倍長離憂　　　 一倍 を長ず

夜思千重戀舊遊　　　 旧遊を恋う

**秦地****故人成遠夢**　　　の故人 遠夢と成り

**楚天多雨在孤舟**　　　の多雨 孤舟に在り

**諸溪近海潮皆應**　　　諸溪 海に近くして 皆 応じ

**獨樹邊淮葉盡流**　　　独樹 に辺いて 葉 く流る

別恨轉深何處寫　　　別恨 た 深く何れの処にか写さん

前程唯有一登樓　　　前程 唯だ有り 一登楼

【語釈】

○淮浦…江蘇省淮安市漣水県。○司空曙…唐代の詩人。大暦十才子の一人。○愁心…愁える心。○離憂…故郷を離れる憂い。○舊遊…昔からの友人。○秦地…長安を指す。○故人…なじみの友人。○楚天…淮浦の空。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**尋****郭道士不遇　　　を尋ねてわず**

郡中乞假來**尋**訪　　　に仮を乞いて 来たりてせしに

洞裏朝元去不逢　　　 元に朝して 去りて逢わず

**看院祗留雙白鶴**　　　院を看みれば だ留む

**入門惟見一青松**　　　門に入れば だ見る

**藥爐有火丹應伏**　　　薬炉 火有りて に伏すべし

**雲碓無人水自舂**　　　 人無く 水 ら舂なり

欲問參同契中事　　　問わんと欲す の事

未知何日得相從　　　未だ知らず 何れの日にか　相い從うを得ん

【語釈】

○郭道士…未詳。○郡中…郡の役所、この場合は江州。假…休暇。○洞裏…郭道士の居宅。○朝元…玄元皇帝李老君（老子）の廟に参朝する。○院…庭。○留…留守番をさせる。○丹…丹薬、仙人の不老不死の薬物。○伏…火で調伏して仙丹を練ること。○雲碓…雲母（仙薬の材料）を搗くからうす、水を受けて自動的に動く仕組みになっている。○參同契…練丹の方法を書いた本。○從容…ゆっくりと逗留すること。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**早秋寄題天竺靈隱寺 　　早秋 ・に寄題す**

峰前峰後寺新秋　　　 寺 新たに秋なり

絕頂高窗見沃洲　　　絕頂のに を見る

**人在定中聞蟋蟀**　　　人はに在りて を聞き

**鶴曾棲處挂獼猴**　　　鶴 曽て棲みし処 をく

**山鐘夜渡空江水**　　　 夜 渡る 空江の水

**汀月寒生古石樓**　　　 寒く生ず 古石楼

心憶懸帆身未遂　　　心にを憶えども 身 未だげず

謝公此地昔**曾**遊　　　 此の地に 昔 て 遊ぶ

【語釈】

○天竺・靈隱…天竺寺と靈隱寺、共に浙江省杭州市の西郊の山中にある。寄題…他の地にあって、題材にして詩を作ること。○沃洲…山の名、浙江省新昌県の東にある。○定中…無念無想の境地。○蟋蟀…こおろぎ。○獼猴…猿。○空江…ひっそりとした川。○汀月…岸辺の月。○懸帆…帆掛け船。○憶懸帆…帆掛け船に乗って尋ねて行きたいと思う。○謝公…晉の謝安のこと、初め勧められても出士せず、杭州付近の山中で遊び過ごした。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**題宣州開元寺水閣　　　ののに題す**

六朝文物草連空　　　の文物 草 空に連なる

天淡雲閑今古同　　　天淡く 雲かに 今古同じ

**鳥去鳥來山色裏**　　　鳥去り 鳥来たる 山色の

**人歌人哭水聲中**　　　人歌い 人哭す 水声の

**深秋簾幕千家雨**　　　深秋 千家の雨

**落日樓臺一笛風**　　　落日 楼台 一笛の風

惆悵無因見范蠡　　　す を見るにし

參差煙樹五湖東　　　たる 煙樹 五湖の東

【語釈】

○宣州…安徽省東南の宣州市。○開元寺…現安徽省宣州宣城にある寺院で、正式の名称は永楽寺。○水閣…水辺に建てたたかどの。○六朝…六つの王朝のことで、後漢の滅亡後、建業（南京）に都した六つの王朝。○文物…文化の産物。○礼法音楽学問芸術など、文化的な制度。○澹…やすらか、穏やか。○一笛風…風に乗って、一人で吹く笛の音が聞こえて来ること。○惆悵…うらみなげくさま。○無因…わけが無い。范蠡…越王勾践に仕え、呉王夫差を討って会稽の恥を雪（すす）がせ、自分の果たすべき事をした後、隠棲をするとして湖に舟を浮かべて過ごした。参差…長短不揃いのさま。煙樹…靄の中に霞んで見える木。　五湖…太湖及びその周辺の湖。

（新釈漢文大系　詩人編　９）

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**長安秋夕**

雲物淒涼拂曙流　　　 淒涼として を払って流れ

漢家宮闕動高秋　　　漢家の 高秋に動く

**殘星幾點雁橫塞**　　　 幾点 雁 塞を橫ぎり

**長笛一聲人倚樓**　　　長笛 一声 人 楼にる

**紫豔半開籬菊靜**　　　 半ば開いて 静かなり

**紅衣落盡渚蓮愁**　　　 落尽くして 愁う

鱸魚正美不歸去　　　 に美なれども 帰り去らず

空戴南冠學楚囚　　　空しく を戴きて を学ぶ

【語釈】

○雲物…天地山川の気象。○淒涼…物寂しいさま。○拂曙…暁から。○宮闕…宮城の門。○高秋…天高き秋。○紫豔…艶やかなる紫、菊の色。○籬菊…籬の菊。○紅衣…赤い蓮の花。○鱸魚正美不歸去…晉の張翰が，故郷のスズキの膾が美なるを思って官を辞して故郷に帰った故事をふまえる。○南冠・楚囚…晉に捕らえられた楚の囚人が、南方の冠を着けていた故事。楚囚のごとく故郷に帰りもせずに，長安に留まっているという意味。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**宿山寺　　　　山寺に宿す**

栗葉重重覆翠微　　　 として をい

黃昏溪上語人稀　　　黃昏 語る人 稀なり

**月明古寺客初到**　　　月は 古寺に明かにして 初めて到り

**風度****閑門僧未歸**　　　風は に度りて 僧 未だ帰らず

**山果經霜多自落**　　　山果 霜を経て 多くら落ち

**水螢穿竹不停飛**　　　水螢 竹を穿ちて 飛びてらず

中宵能得幾時睡　　　 く 幾時のを得ん

又被鐘聲催著衣　　　又 鐘声に 著衣をさる

【語釈】

○重重…重なり合うさま。○翠微…緑色をした山の中腹。○黃昏…夕暮れ。○閑門…火との出入りの少ない門。○初…～したばかり。○山果…山の木の実。○穿…くぐり抜ける。○中宵…真夜中。○鐘聲…この場合、夜明けを告げる鐘声。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**題永城驛 永城駅に題す**

秋賦春還計盡違　　　秋にして 春にり 計 くう

自知身是拙求知　　　ら知る身は 是れ 知を求むるに拙なり

**唯思****曠海無休日**　　　だ思う 休日無からんや

**却喜孤舟似去時**　　　却って喜ぶ 孤舟 去る時に似たるを

**連浦一程兼****汴宋**　　　に連なる 一程 を兼ね

**夾堤千柳雜唐隋**　　　堤をむ千柳 唐隋を雜う

從來此恨皆前達　　　從来 此の恨み 皆 前達あり

敢負吾君作楚辭　　　敢えて 吾が君にいて楚辞をらんや

【語釈】

○永城驛…河南省帰徳府永城県。○秋賦…科挙の地方試験に合格したこと。○春還…科挙の中央試験に落第して帰ること。○拙求知…知己があれば合格したであろうと言う事をいう。○曠海…広い海汴宋。論語の「道行われず、桴に乗りて海に浮かばん」を引いている。○汴宋…汴州（河南省開封市）と宋州（河南省商丘市）、永城驛と道が通じる。○唐隋…唐時代に植えられた柳と隋時代に植えられた柳。○前達…前の時代のすぐれた人。○結句…屈原の如く主君を怨んで楚辞のような詩を作らないと言う意。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**慈恩偶題 　　　にたます**

往事悠悠**成**浩歎　　　往事 悠々としてを成す

**浮**生擾擾竟何能　　　浮生 としてに何をか能くせん

**故山歲晚不歸去**　　　故山 歲れて 帰り去らず

**高塔晴來獨自登**　　　高塔 晴れ来たりて ら登る

**林下聽經秋苑鹿**　　　林下 を聴く の鹿

**江邊掃葉夕陽僧**　　　江辺 葉をう夕陽の僧

吟餘却起雙峰念　　　 却って起る 双峰の念

曾看菴西瀑布冰　　　て看る 瀑布の氷

【語釈】

○慈恩…慈恩寺。長安にある玄奘三蔵ゆかりの名刹。○往事…過ぎ去った昔。○悠悠…のんびり、ゆったりしたさま。○浩歎…大きなため息。○浮生…はかない浮き世。○擾擾…ごたごたしているさま。○竟何能…反語、なにもできない。○故山…故郷の山、故郷。○高塔…慈恩寺の大雁塔。○獨自…独り。二字でこう読む場合もある。○雙峯…広東省曲江県の雙峯寺。○菴西瀑布…雙峯寺の西にある滝。

【構成】

○前虚のところに景物を用いて情思を叙し、後実では直ちに景物を言い、結句にいたって情思を述べる。

**都城蕭員外寄海棠花　　都城の を寄せらる**

珠履行臺擁附蟬　　　の をす

外郎高步似神仙　　　 高步して 神仙に似たり

**陳詞今見唐風盛**　　　 今に見る 唐風の盛なるを

**從事遙瞻****魏國賢**　　　 遙かにぐ 魏国の賢

**擲地****好辭****凌綵筆**　　　の をぎ

**浣花春水膩魚箋**　　　浣花の春水 魚箋にく

東山芳意須同賞　　　東山の くに賞すべし

子著囊盛幾日傳　　　をけ に盛って 幾日か伝えん

【語釈】

○蕭員外…不祥。○珠履…珠の履。楚の春申君の故事をもって、蕭員外に喩える。○行臺…官職の名、臨時に外部において尚書のことを行う者、蕭員外を指す。○附蟬…冠の飾り。貴い官を指す。○外郎高步…多数の随員を従えて歩くさま。○陳詞…詩賦を表した物、蕭員外から寄せられた「海棠花」詩。○從事…随行する役人。○魏國賢…曹植に従う王粲・陳琳などの賢者。蕭員外をこれらに喩えている。○擲地…擲地金聲（故事）。○好辭…良い詩。絶妙好辭（故事）。○凌綵筆…故事。○浣花…成都の浣花溪。○魚箋…浣花溪産の紙。○東山…会稽（浙江省紹興市）、謝安が妓女を携えて遊んだ。○芳意…春意、他人の情意の美称。○子著囊盛…実を袋に入れる意。王羲之の故事。

【構成】

○前虚に故事を用いたもの。

**陳琳墓　　　　の墓**

曾於青史見遺文　　　て に於いて 遺文を見る

今日飄零過古墳　　　今日 して 古墳を過ぐ

**詞客有靈應識我**　　　 有らば に我を識るべし

**霸才無主始憐君**　　　 主無くして 始めて君を憐れむ

**石麟埋沒藏春草**　　　 埋沒して 春草にれ

**銅雀荒涼起暮雲**　　　銅雀 荒涼として 起こる

莫怪臨風倍惆悵　　　怪しむ莫かれ 風に臨みて ますするを

欲將書劒學從軍　　　書剣をって從軍を学ばんと欲す

【語釈】

○陳琳…曹操に仕え、多くの檄文を書いた名文家。墓は下邳（江蘇省徐州市に位置する県級市）にある。○青史…歴史を標した書物。○飄零…落ちぶれる。○霸才…覇者を助ける才能。○石麟…石で作った麒麟、塚に置く。○銅雀…銅雀臺、曹操が作った宮殿。○惆悵…嘆き悲しむ。

【構成】

○前虚に故事を用いたもの。

**鸚鵡洲眺望　　　　　の眺望**

悵望春襟鬱未開　　　悵望すれば として未だ開かず

重臨鸚鵡益堪哀　　　重ねて に臨んで ます哀れむに堪えたり

**曹瞞尚不能容物**　　　も 尚お 物を容れる能わず

**黃祖何曾解愛才**　　　 何ぞ て く 才を愛せん

**幽島暖聞****燕鴈去**　　　幽島 暖くして の去るを聞き

**曉江晴覺蜀波來**　　　 晴れて 蜀波の来たるを覚ゆ

唯人正得風濤便　　　か に の便を得て

一點征帆萬里迴　　　一点の 万里より迴える

【語釈】

○鸚鵡洲…湖北省武漢市西南の長江にあった中洲。三国時代に呉の黄祖が禰衡を殺して埋めた所。○悵望…悲しく眺めやる。○春襟…春の日の思い。○鸚鵡…鸚鵡洲。○曹瞞…禰衡が仕えようとしたが、江夏へ放逐した人物。○黃祖…江夏の太守。○幽島…人気の無いひっそりした島、鸚鵡洲。燕鴈…燕の地方の鳫。○曉江…ここでは浙江。○蜀波…蜀の氷が溶けて水になった物。○風濤便…風は追い風、波は穏やかなこと。○征帆…旅用の船。

【構成】

○前虚に故事を用いたもの。

**繡嶺宮**

古殿春殘綠野陰　　　古殿 春はして 緑野の

上皇曾此去泥金 上皇 曾って 此に をつ

**三城帳屬升平夢** 三城の帳はす の夢

**一曲鈴關****悵望心** 一曲のは関わる の心

**苑路暗迷香輦絕**　　　 暗に迷いて 絶え

**繚垣秋斷****草煙深**　　　 秋に断えて 深し

前朝舊物東流在　　　前朝の旧物 東流 在り

猶爲年年下翠岑　　　お 為に 年々 より下る

【語釈】

○繡嶺宮…唐の高宗が造った宮殿。河南省陕県にある。○上皇…玄宗。

○去泥金…封禅の儀を行う為に惜しみなく黄金を浪費したこと。○三城帳…尚書が行幸に供奉して三部の帳を廻ら城の様に見えたこと。

○升平夢…天下太平のときの夢。○升平夢…玄宗が楊貴妃を偲んで作った「雨霖鈴曲」のこと。○悵望…悲しく遠くを眺めやる。○苑路…花園の中の道。○香輦…帝王や妃の乗る輦。○繚垣…周囲の垣根。○草煙…草と霞。○翠岑…緑の峰。

【構成】

○前虚に故事を用いたもの。

**前実後虚**

**春日道中寄孟侍御　　　春日道中に寄す**

春來游子傷歸路　　　 帰路をむ

時有白雲邀獨行　　　時に白雲の 独行をうる有り

**水流亂赴石潭響**　　　水流は乱れいて 響き

**花發不知山樹名**　　　花はいて知らず 山樹の名

**誰家魚網求鮮食**　　　誰が家の魚網か 鮮食を求め

**何處人煙事火耕**　　　何処の人煙か を事とす

昨日已嘗村酒熟　　　昨日已にむ 村酒の熟すを

一杯思與孟嘉傾　　　一杯 と 傾けんことを思う

【語釈】

○孟侍御…不詳、侍御は官名で御持史のこと。○春來…春になると、「來」は助辞。○游子…さすらい人。○獨行…一人旅。○石潭…岩の多い淵。○火耕…焼き畑農業。○孟嘉…晋の人、酒好きで有名、ここでは、孟侍御をなぞらえたもの。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**早春歸****盩厔舊居寄****耿湋李端　　　早春　の旧居に帰りて・に寄す**

野日初晴麥壠分　　　野日 初めて晴れ 分かる

竹園村巷鹿成羣　　　 鹿 群れを成す

**萬家廢井生新草**　　　万家の 新草を生じ

**一樹繁花對古墳**　　　一樹の 古墳に対す

**引水忽驚冰滿澗**　　　水を引いて 忽ち驚く 氷のに満つるを

**向田空見石和雲**　　　田に向いて 空しく見る 石の雲に和するを

可憐荒歳青山下　　　憐われむべし 青山の下

惟有松枝好寄君　　　惟だ のみ有りて 君に寄するに好し

【語釈】

○盩厔…陝西省鵬翔県。○耿湋…唐の詩人。字は洪源。蒲州河東県の出身。七六三年の進士。大理司から左拾遺に至った。大暦十才子の一人。○李端…唐の詩人。、進士に及第、、杭州司馬に任ぜられたが、ついに衡山に移住し、衡岳幽人と称して隠者の生活を送った。大暦十才子の一人。○麥壠…麦馬畑。○村巷…村の道。○澗…渓。○荒歳…穀物の実らない年。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**松滋渡望峽中　　　　よりを望む**

渡頭輕雨**洒**寒梅　　　渡頭の軽雨寒梅にぐ

雲際溶溶雪水來　　　雲際 溶々として 雪水 来たる

**夢渚草長迷楚望**　　　夢渚 草長じて 楚望を迷わし

**夷陵土黑有秦灰**　　　夷陵 土黒くして 秦灰有り

**巴人淚應猿聲落**　　　巴人の淚は 猿声に応じて落ち

**蜀客船從鳥道回**　　　蜀客の船は 鳥道りる

十二碧峰何處所　　　十二の の所ぞ

永安宮外是荒臺　　　 是れ 荒台

【語釈】

○松滋渡…江稜にある渡し。○渡頭…渡し場のあたり。○溶溶…水が盛んに流れるさま。○夢渚…洞庭湖の周辺に広がる沼沢地。○楚望…楚の国の遠望。○夷陵…湖北省宣昌。○秦灰…秦の将軍白起が焼き払ったあと灰。○巴人…四川省東部の人。○鳥道…鳥しか通わないような険阻な道（川）。○十二碧峰…巫山にある十二の緑の峰。○永安宮…虁州にあった行宮、劉備が死んだところ。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**春日閑坐**

官曹崇重難頻入　　　 にしてりに入ることく

第宅清閑且獨行　　　 清閑にしてく独り行かん

**階蟻相逢如****偶語**　　　 相逢いて するが如く

**園蜂速去恐****違程**　　　園蜂 速く去りて 程にうことを恐る

**人於****紅藥****偏憐色**　　　人は に於いて えに色を憐れみ

**鶯到垂楊不惜聲**　　　鶯は に到りて 声を惜しまず

東洛池臺怨拋擲　　　東洛の池台 を怨む

移文非久會應成　　　移文 久しきにらず ず に成るべし

【語釈】

○官曹…役人。○崇重…威厳を示すこと。○第宅…自分の家。○階蟻…階下に往来する蟻。○偶語…対話。○園蜂…蜂。○違程…時刻に遅れる。○紅藥…紅色の芍薬。○東洛…洛陽。○池臺…池に臨んだうてな。○拋擲…留守にしておくこと。○移文…「北山移文」、隠棲していた周彦倫が官に仕えようとしたところ、孔稚圭がこれを譏った文書。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**妟安寺**

寺深松桂無塵事　　　寺に 松桂 深くして 無し

地接荒郊帶夕陽　　　地はに接し を帯ぶ

**啼鳥歇時山寂寂**　　　 む時 山

**野花殘處月蒼蒼**　　　 する処 月

**碧紗凝艶開****金像**　　　 をらして 　開き

**清梵銷聲閉竹房**　　　 んで 閉ず

丘壠漸平連茂草　　　 く平かにして 連なる

九原何處不心傷　　　 何れの処か 心 傷まざらん

【語釈】

○妟安寺…山西省絳州にある寺。○荒郊…荒野。○寂寂…寂しく静かなさま。○蒼蒼…月の青白い色の形容。○碧紗…緑色のうすぎぬのカーテン。○金像…金銅の仏像。○清梵…読経の声。○丘壠…荒れ地。○九原…墓のある野原。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**館娃宮**

艶骨已成蘭麝土　　　 已にの土と成り

宮牆依舊壓層崖　　　 旧に依りて を圧す

**弩臺雨壞逢金鏃**　　　 雨にれて に逢い

**香徑泥銷露****玉釵**　　　 泥にして をす

**硯沼只留山鳥浴**　　　只だ 山鳥の浴するを留め

**屧廊空信野花埋**　　　 空しくす 野花の埋むるに

姑蘇麋鹿真閑事　　　の 真に

須爲當時一愴懷　　　く当時の為に一たびをましむべし

【語釈】

○館娃宮…呉王夫差が西施を住まわせた宮殿、江蘇省蘇州の硯石山にある。○艶骨…西施の骨。○蘭麝…名貴な香料。○宮牆…宮殿の垣根。○層崖…重なった崖。○弩臺…夫差が美女たちに弓弩を慣わせた台。○玉釵…玉のかんざし。○硯沼…硯石山にある硯池。○屧廊…響屧廊…呉の宮殿の廊下。歩くと特殊な音がした。○姑蘇…姑蘇台。呉王夫差が姑蘇山（江蘇省呉県の西南）上に築いた台の名。○麋鹿…鹿。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**方干隱居　　　　の隱居**

咬咬嘎嘎水禽聲　　　 の声

露洗松陰滿院清　　　露はを洗って 満院清し

**溪畔印沙多鶴跡**　　　溪畔 沙に印して 多く

**檻前題竹有僧名**　　　 竹に題して 僧名有り

**問人遠岫千重意**　　　人に問う 千重の意

**對客閑雲一片情**　　　に対す 一片の情

早晚塵埃得休去　　　早晚 塵埃　休して去るを得て

且將書劒事先生　　　く 書剣をって 先生にえん

【語釈】

○方幹…大中（八四七～八四九）科挙を受けたが合格せず、浙江省紹興の鑑湖に隠棲した。○咬咬嘎嘎…水鳥の鳴き声を表す擬声語。○満院…庭一杯。○溪畔…谿のほとり。○印沙…砂に印がついている。○、○鶴跡…鶴の足跡。○檻…家の周囲の垣根の手すり。○遠岫…遠い山の峰。○千重…幾つもの山が重なっている。○閑雲…のどかに漂う雲。○塵埃…俗世間の塵、汚れた俗事。○先生…方干のこと。

【構成】

○前実の語は軽く、後虚の情は深い。

**詶李端病中見寄　　　が病中に寄せらるにゆ**

野寺昏鐘山正陰　　　の 山 にく

亂藤高竹水聲深　　　 水声深し

**田夫就餉還依草**　　　 に就いて お 草に依り

**野雉驚飛不過林**　　　 して 林をぎず

**斎沫暫思同靜室**　　　 く思う を同じくせんことを

**清羸已覺助禪心**　　　　已に覚ゆ 禅心を助くるを

寂寞日長誰問疾　　　 日長くして 誰か疾を問わん

料君惟取古方尋　　　料る 君がだを取りて 尋ねんことを

【語釈】

○李端…唐の詩人。進士に及第、、杭州司馬に任ぜられたが、ついに衡山に移住し、衡岳幽人と称して隠者の生活を送った。大暦十才子の一人。○野寺…野原の中にある寺。李端が病を得て、この寺で身を養っていた。○昏鐘…晩鐘。○餉…弁当。○斎沫…斎戒沐浴、身を清浄にすること。○靜室…李端がいると同じような閑かな部屋。○清羸…清く痩せていること。李端のこと。○寂寞…ひっそりとしてものさびしいさま。○古方…昔の医方。

**贈道士　　　　　　　道士に贈る**

簪星曳月下蓬壺　　　星をし 月をいて を下る

曾見東臯種白楡　　　曽て見る に をえしを

**六甲威靈藏瑞檢**　　　六甲の にめ

**五龍雷電遶****霜都**　　　五龍の雷電 をる

**惟教鶴探****丹丘信**　　　だ 鶴をして らしむ の信を

**不使人窺****太乙爐** 人をして わしめず の炉

聞說葛陂風浪惡　　　く 風浪 悪しと

許騎青鹿從行無　　　に騎して に従うことを 許すや無や

【語釈】

○簪星曳月…星冠月佩、道士の身の装飾品。○蓬壺…蓬莱（仙人が住む山）。○東臯…東方。○白楡…白楡星、星の名。○六甲…甲子から甲戌までの六つの甲。○瑞檢…玉の箱。○五龍…五方の星。○霜都…清い壇。○丹丘…仙人の住むところ。○太乙爐…仙薬である太乙丹を練る炉。○葛陂…河南省新祭県の南の地名。○青鹿…蘇耽が騎ったという青い鹿。

**送客之****湖南　　　客のに之くを送る**

年年漸見南方物　　　年々 く見る 南方の物

事事堪傷北客情　　　事々 傷ましむに堪えたり 北客の情

**山鬼趫****跳唯一足**　　　山鬼 す だ一足

**峽猿哀怨過三聲**　　　峽猿 して 三声を過ぐ

**帆開青草湖中去**　　　帆は開いて に去り

**衣濕****黃**梅雨**裏行**　　　衣はいてに行く

別後雙魚定難覓　　　別後 双魚は定めて覓め難からん

近來潮不到湓城　　　近来 潮は に到らず

【語釈】

○湖南…潭州（湖南省長沙市一帯）。○漸…だんだんと、次第次第に。○北客…北から来た人。この客と作者。○山鬼…山中の一本足の怪物。

○跳唯…飛び跳ねる。○峽猿…山峡に住む猿。○哀怨…悲しみ怨む。○青草湖…洞庭湖の南にある湖。○黃梅雨…梅雨。○雙魚…双の鯉。手紙、書簡をいう。『文選』古楽府「飲馬長城堀行」。○湓城…江西省九江市。

（『新釈漢文大系　白氏文集（三）』

**送****劉谷　　　　　劉谷を送る**

村橋西路雪初晴　　　の西路 雪 初めて晴る

雲暖沙乾馬足輕　　　雲 暖かに 沙 乾わき 馬足 軽ろし

**寒澗渡頭芳草色**　　 芳草の色

**新梅嶺外鷓鴣聲**　　　新梅 嶺外 の声

**郵亭已送征車發**　　　 已に の発するを送る

**山館誰將候火迎**　　　山館 誰か候火をって迎えん

落日千峰轉迢遰　　　落日 千峰 転たたり

知君回首望高城　　　知る 君がを回して 高城を望むを

【語釈】

○劉谷…不祥。○寒澗…さむざむとした谷川。○渡頭…渡し場。○芳草…かおりぐさ。○郵亭…駅亭。○征車…旅行く車。○候火…たいまつ。○轉…ますます。○迢遰…遙かなさま。

**江上逢王將軍　　　　江上にて王将軍に逢う**

虬鬚憔悴羽林郎　　　す

曾入甘泉侍武皇　　　て甘泉に入り武皇に侍す

**鵰沒夜雲知御苑**　　　は夜雲に沒して 御苑を知り

**馬隨****仙仗識天香**　　　馬はに隨いて香を識る

**五湖歸去孤舟月**　　　五湖 帰り去る 孤舟の月

**六國平來兩鬢霜**　　　六国 平らげ来る両鬢の霜

唯有桓伊江上笛　　　唯だ の 江上の笛のみ有りて

臥吹三弄送殘陽　　　臥してを吹き 残陽を送る

【語釈】

○王將軍…不祥。○虬鬚…みづちのように曲がっている鬚。○憔悴…老いて衰える。○羽林郎…羽林軍（近衛兵）の仕官。王將軍の元の役職。○甘泉…甘泉宮、陝西省淳化県にある。○武皇…玄宗をいう。○鵰…大鷲。○仙仗…儀仗兵。○天香…朝廷で儀式の時に焚く香。○五湖…范蠡が隠棲したときに渡った湖。○六國…戦国七国の内、秦に征服された六国。○桓伊…晉の征南将軍、引退いたとき、財物は、王徽之から贈られた笛一つだけを持った。○三弄…梅花三弄曲。

**和****皮日休酬****茅山廣文 の茅山の****広文に酬ゆに和す**

一片輕帆背夕陽　　　一片の に背き

望三峯拜七真堂　　　三峯を望みてを拝す

**天寒夜漱****雲牙淨**　　　天寒くして 夜 のきにぎ

**雪壞晴梳****石髪香**　　　雪は壞れて 晴にのしきにる

**自拂烟霞安筆格**　　　自ら煙霞を払いて筆格を安んじ

**獨開封檢試砂牀**　　　独り封検を開いて砂床を試む

莫言洞府能招隱　　　言う莫かれ 能く隱を招くと

會輾飆輪見玉皇　　　ず をらせて 玉皇を見ん

【語釈】

○皮日休…襄陽の人、八六七年の進士に及第し、著作郎・太常博士などを歴任した。陸亀蒙と合わせて皮陸と呼ぶことがある。○茅山廣文…不祥。○輕帆…軽やかな小さな帆船。○三峯…潤州（江蘇省鎮江市一帯）にある三つの峯。○七真堂…道教の七真人を祀る堂。○雲牙…茶のこと。○石髪…苔のこと。○煙霞…靄と霞。○筆格…筆かけ。○封検…大切な箱。○砂牀…道士が薬を練る方法の一つ。○洞府…道教の神仙の住む地方。○飆輪…仙人の乗る車。○玉皇…道教の本尊。

【構成】

○首聯・頷聯…皮日休を言う。頸聯は広文を言う。尾聯は両者を言う。

**蒲津河亭　　　の**

宿雨清秋霽景**澄**　　　宿雨 清秋 澄み

廣亭高樹**更**晨興　　　広亭 高樹 更ににく

**煙橫博****望乘槎水**　　　煙はう が にぜし水

**日上****文王避雨陵**　　　日は上る 文王が 雨を避けし

**孤棹****夷猶期獨往**　　　 して を期し

**曲欄愁絕每長凭**　　　曲欄 愁絕して每ににる

思鄉懷古多傷別　　　鄉を思いを懷い 多く別れを傷む

此際哀吟幾不勝　　　此の際 哀吟してどえず

【語釈】

○蒲津…山西省蒲州府永濟県。○河亭…川辺の宿場町。○宿雨…夜来の雨。○霽景…雨後の晴れた景色。○煙…靄、霞。○博望乘槎…博望は張騫のこと、槎に乗って銀河に到達したという傳説（蒙求）。望乘槎水は黄河のこと。○文王避雨陵…周の文王が雨を避けたという二つの陵、河南省陝県の殽山にある。○孤棹…孤舟。○夷猶…ぐずぐずする。○曲欄…曲がった欄干。○愁絕…ひどく愁い悲しむ。

**感懷**

秋風落葉正堪悲　　　秋風 落葉 に悲しむに堪えたり

黃菊殘花欲待誰　　　黃菊の残花 誰を待たんと欲す

**水近偏逢寒氣早**　　　水近くして えに逢う 寒気の早きに

**山深長見日光遲**　　　山深くして く見る 日光の遅きを

**愁中卜命看周易**　　　に をして を

**夢裏招魂誦楚詞**　　　夢裏に魂を招きて をす

自笑不如湘浦鴈　　　自ら笑う のにからざるを

飛來却是北歸時　　　飛来たるは 却って 是れ 北に帰る時

【語釈】

○感懐…心に感じた思い。○殘花…損なわれた花。○水…川や湖。偏…ひとえに、すこぶる。○愁中…愁いの中で、愁いを抱いて。○卜命…運命をうらなう。○周易…周代の占いを書いた書、『易経』。○夢裏…夢のなか。○招魂…死者のたましいを招いてなぐさめ、祭る。○楚詞…『楚辞』。○自笑…自嘲する。不如Ａ…Ａにおよばない。○湘浦…湘水のほとり。○湘水は…湖南省を流れて瀟水と合流して洞庭湖に注ぐ川。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**輞川積雨　　　　の積雨**

積雨空林煙火遲　　　 空林 煙火遅し

蒸藜炊黍餉東菑　　　を蒸し を炊きて に餉す

**漠漠水田飛白鷺**　　　たる水田に　 飛び

**陰陰夏木囀黃鸝**　　　陰々たるに ずる

**山中習靜****觀朝槿**　　　山中の を觀じ

**松下清齋折露葵**　　　松下の を折る

野老與人爭席罷　　　野老 人と席を争うをむに

海鷗何事更相疑　　　 何事か 更にう

【語釈】

○積雨…長雨。○空林…人気の無い林。○煙火…かまどの煙。○藜…はまびし。○黍…きび。○東菑…東の畑（で働いている人）。○餉…弁当として送る。○漠漠…広々として果てしないさま。○白鷺…しらさぎ。○陰陰…木が茂って暗いさま。○黄鸝…ちょうせんうぐいす。○囀…さえずる。○習靜…心を落ち着けて坐り、精神統一を行う。○觀朝槿…朝槿は木蓮。世の無常さについて達観すること。○清齋…精進料理。○露葵…フユアオイ。羹にする。○野老…田舎の老人、王維の自称。○海鷗…『列子』「黄帝篇」の寓話。

（新釈漢文大系　詩人編　３）

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**石門暮春　　　　　の**

自哂鄙夫多野性　　　らう の 野性多きを

貧居數畝半臨湍　　　 ばに臨む

**谿雲雜雨來茅屋**　　　 茅屋に来たる

**山雀將雛傍藥欄**　　　 を将いて に傍う

**仙籙滿牀閑不厭**　　　 牀に満ちて にしてかず

**陰符在篋老羞看**　　　 篋に在りて 老いて 看るをず

更憐童子宜春服　　　更に憐われむ 童子の 春服に宜しきを

花裏尋師到杏壇　　　 師を尋ねて に到る

【語釈】

○石門…山東省臨邑県にあると思われるが、不詳。○鄙夫…おろかで卑しい人。○野性…性情の野暮なこと、世間の慣習や礼儀作法になじまないこと。○湍…早瀬。○谿雲…谿からわき上がる雲。○藥欄…薬草畑の作の柵。○仙籙…仙道の書。○陰符…陰符経、のことで転じて兵法の書を言う。○杏壇…師の教壇。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**酬慈恩寺文郁上人 慈恩寺のに酬ゆ**

袈裟影入禁池清　　　の影は に入りて清し

猶憶鄉山近赤城　　　おう のに近きを

**籬落罅間寒蟹過**　　　のに 過ぎ

**莓苔石上晚蛩行**　　　の石上に 行く

**期登野閣閑應甚**　　　に登らんと期して にしかるべく

**阻宿幽房疾未平**　　　幽房にして 未だ 平かならず

聞說又尋南岳去　　　く 又 を尋ね去ると

無端詩思忽然生　　　くも として生ず

【語釈】

○慈恩寺…長安の南東、曲江の当たりにある寺、玄奘三蔵が経を翻訳した寺。○文郁上人…不詳。○酬…詩を寄せられそれに応える。○禁池…禁中の池。○鄉山…故郷の山。○赤城…天台山の目印である赤城峰。○籬落…まがき、かきね。○罅間…すきま。○寒蟹…寒々とした蟹。○莓苔…こけ。○晚蛩…晩になくコオロギ。○野閣…郊外の高殿。○幽房…静かで奥深い部屋。○疾未平…いまだ病が治らない。○聞說…聞くところによれば。○南岳…南方の山。○無端…思いがけず。○詩思…詩を作ろうと思う心。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**江亭秋霽 江亭の秋霽**

碧天涼冷雁來疎　　　 にして 雁 来ること なり

**閑看**江雲思有餘　　　に 江雲を看て 思い 余り有り

**秋館池亭荷葉後**　　　の の後

**野人籬落豆花初**　　　野人の 豆花の

**無愁自得仙翁術**　　　愁無くして ら得たり 仙翁の術

**多病能忘太史書**　　　病多くして く 太史の書を忘る

聞說故園香稻熟　　　く 故園 熟すと

片帆歸去就鱸魚　　　 帰り去りて に就かん

【語釈】

○江亭…川辺の亭。○秋霽…秋の晴れた空。○雁來疎…郷信の稀なことを言う。○江雲…江上の雲。○池亭…池のある亭。○野人…村人。○野人…○籬落…まがき、かきね。○仙翁術…練丹の秘術。○太史書…『史記』。○香稻…稲の一種。○片帆…小さな帆掛け船。○鱸魚…スズキの一種。その膾を食べたいために官職を捨てて故郷に帰った張瀚の故事。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**漢南春望　　　漢南の春望**

獨尋春色上高臺　　　り 春色を尋ねて 高台に上る

三月皇州駕未回　　　三月の皇州 未だえらず

**幾處松筠燒後死**　　　のぞ 焼後に死し

**誰家桃李亂中開**　　　誰が家の桃李か 乱中に開く

**奸邪用法元非法**　　　 法を用う 元 法に非ず

**唱和求才不是才**　　　唱和して 才を求む 是れ 才ならず

自古浮雲蔽白日　　　えり 浮雲 白日を蔽う

洗天風雨幾時來　　　天を洗う風雨 か来たらん

【語釈】

○漢南…漢水の南、湖北省江稜のあたり。○皇州…都、長安。○駕…天子の車駕。○松筠…松と竹。○乱中…黄巣の乱。○姦邪…邪悪な人間。○浮雲…奸臣。○白日…天子。○洗天風雨…周の武王が殷の紂王を撃つときに雨が降り、太公望が「洗兵雨」と言った。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**春夕旅懷 の**

水流花謝兩無情　　　水は流れ 花は謝し 両つながら無情

送盡東風過楚城　　　東風を送り尽くして楚城を過ぐ

**胡蝶夢中家萬里**　　　胡蝶夢中に 家万里

**杜鵑枝上月三更**　　　杜鵑枝上に 月三更

**故園書動經年到**　　　故園の書は　もすれば　年を経て到り

**華髮春惟兩鬢生**　　　の春は だ に生ず

自是不歸歸便得　　　自ら是れ帰らず 帰らばち得ん

五湖煙景有誰爭　　　五湖の煙景 誰り有てか争わん

【語釈】

○楚城…不詳、洞庭湖付近にある街。○胡蝶夢…『荘子』による。○杜鵑…ホトトギス。○華髮…白髪。○五湖…范蠡が越を去った太湖。○煙景…靄のかかった景色。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**長陵 長陵**

長安高闕此安劉　　　長安の 此に を安んず

附葬纍纍盡列侯　　　 として く 列侯

**豐上舊居無故里**　　　豊上の旧居 故里無く

**沛中原廟對荒丘**　　　の 荒丘に対す

**耳聞****英主提三尺**　　　耳に聞く 英主 三尺をしと

**眼見愚民盜一抔**　　　眼に見る愚民 一抔を盜むを

千載豎儒騎瘦馬　　　千載の 瘦馬に騎し

渭城斜日重回頭　　　渭城の斜日 重ねてをらす

【語釈】

○漢の髙祖の陵、長安の北にある。○高闕…広大な宮の門。○附葬…回りに葬られている人の墳墓。○纍纍…続き連なっているさま。○豐上…沛（江蘇省徐州府豊県）、高祖の故郷で、高祖が此の地の民を陝西省西安府臨潼県（新豊）に移した。○沛中原廟…沛にあった高祖の元の廟。○英主…高祖のこと、三尺の剣を引っ提げて天下を取った。○盜一抔…長陵の土一杯を盗む。○千載…千年後。○豎儒…つまらない儒者、作者のこと。○渭城…咸陽、秦の都のあったところ。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**咸陽懷古**

城邊人倚夕陽樓　　　城辺 人はる の楼

城上雲凝萬古愁　　　城上 雲はる 万古の愁

**山色不知秦苑廢**　　　山色は知らず の廃するを

**水聲空傍漢宮流** 水は空しく 漢宮にいて流る

**李斯不向倉中悟**　　　 にいてらずんば

**徐福應無物外遊**　　　徐福 に物外に遊ぶこと無かるべし

莫怪楚吟偏斷骨　　　怪しむ莫かれしてえに骨を断つを

野煙蹤跡似東周　　　野煙 東周に似たり

【語釈】

○咸陽…陝西省咸陽市、秦の都のあったところ。○山色…山の景色。○秦苑…秦の御苑。○李斯…秦の宰相。倉に住む鼠が米を食って安穏に暮らしているのを見て、人間も住むところにより禍福が変わる悟った。○徐福…仙薬を取りに行くと言って海外に去った。同じように悟りがなければ、海外に去ることもなかったであろう。○楚吟…屈原のように国を愁う詩を作ること。○野煙…野に立つ靄。○蹤跡…足跡、ゆくえ。○東周…洛陽に都を移した周。

【構成】

○尾聯において、別に新意を設けて、前六句を結んだもの。

**結句**

**過九原飲馬泉 九原のを過ぐ**

綠楊著水草如煙　　　 水にいて 草 煙の如し

舊是胡兒飲馬泉　　　れ 胡兒の

**幾處吹****笳明月夜**　　　か を吹く 明月の夜

**何人倚劒白雲天**　　　何人か剣にる白雲の天

**從來凍合關山路**　　　從来 す 関山の路

**今日分流****漢使前**　　　今日 分流す 漢使の前

莫遣行人照容鬢　　　行人をしてを照さしむることかれ

恐驚憔悴入新年　　　恐らくは驚かん して新年に入るに

【語釈】

○九原…山西省忻県、諸説あり。○飲馬泉…不祥。○煙…霞。○笳…あし笛。○凍合…凍り付く。○關山…関所のある山。○漢使…作者らのこと。○行人…旅人。○容鬢…顔と鬚。○憔悴…やせ衰える。

**欲到西陵寄王行周 　西陵に到らんと欲してに寄す**

西陵沙岸回流急　　　西陵の沙岸 回流 急なり

船底黏沙去岸遙　　　船底 沙にして 岸を去ること 遙かなり

**驛吏遞呼催下****纜**　　　 に呼びてを下せとし

**棹郎閑立道齊橈**　　　 に立ちて を斉えよとう

**猶瞻伍相青山廟**　　　猶おる 伍相 青山の廟

**未見****雙童白鶴橋**　　　未だ見ず 双童の白鶴橋

欲責舟人無次第　　　舟人の 次第無きを 責めんと欲すれば

自知貪酒過春潮　　　ら知る 酒をりてを過ぎしことを

【語釈】

○西陵…浙江省蕭山市西興鎮。○王行周…不祥。○黏…粘り着く。○驛吏…宿場を管理する役人。○纜…ともづな。○棹郎…船頭。○伍相…伍子胥。浙江省杭州市の青山に廟がある。○雙童白鶴橋…浙江省杭州市にある橋。桓闈が二人の童子と共に、鶴に載って昇天したところ。○過春潮…春の潮が満潮になるのを見過ごした。

**洗竹　　　　　竹をぐ**

道院竹繁教畧洗　　　道院 竹繁くして ぼ がしむ

鳴琴酌酒看扶疎　　　琴を鳴らし 酒を酌んで を看る

**不圖結實來雙鳳**　　　図らず 実を結んで を来すを

**且要長竿釣巨魚**　　　つ要す の 巨魚を釣るを

**錦籜裁冠添散逸**　　　 を裁して を添え

**玉芽修饌稱清虛**　　　 をめ にう

有時記得三天事　　　時有りて す 三天の事

自向琅玕節下書　　　ら にいて 書す

**惜花　　　　　花を惜しむ**

皺白離情高處切　　　の 高処に切に

膩**紅**愁態靜中深　　　の 静中に深し

**眼隨片片沿流去**　　　眼はに隨いて　流れに沿いて去り

**恨滿枝枝被雨淋**　　　恨はに満ちて 雨にがる

**總得苔遮猶慰意**　　　総て 苔の遮ぎるを得ば 猶お意を慰さめ

**若教泥汚更傷心**　　　若し 泥をして汚さしむれば 更に心を傷めん

臨階一盞悲春酒　　　階に臨んで一盞 春酒を悲しむ

明日池塘是綠陰　　　明日 池塘 是れ 緑陰

【語釈】

○皺白…しわの寄った白、凋みかけた花びら。○離情…離別の思い。○高処…高い木の枝。○膩紅…艶やかな紅色（の花びら）。愁態…深い愁い。○一盞…一杯。○春酒…冬に仕込んで春に仕上がる酒。○池塘…池の堤。

詠物

**崔少府池鷺 の**

雙鷺應憐水滿池　　　双鷺 に憐むべし 水の池に満つるを

風飄不動頂絲垂　　　風 れども動かず 垂る

**立當青草人先見**　　　立ちて 青草に当れば 人 先ず

**行傍白蓮魚未知**　　　行きて 白蓮にえば 魚 未だ知らず

**一足獨拳寒雨裏**　　一足 独りむ 寒雨の裏

**數聲相叫早秋時**　　　風声 相叫ぶ 早秋の時

林塘得爾須增價　　　 を得て らく価を増すべし

況與詩家物色宜　　　や 詩家の 物色に宜しきをや

【語釈】

○崔少府…未詳。○雙鷺…一つがいの鷺。○頂絲…頭の頂の白い毛。○一足…一本足で。○林塘…林の中の池の堤。○物色…風景。

**鷓鴣**

暖戲煙蕪錦翼齊　　　暖くに戯れてし

品流應得近山雞　　　 応に得べし に近きを

**雨昏青草湖邊過**　　　雨はく を過ぎ

**花落****黃陵廟裏啼**　　　花は落ち に啼く

**遊子乍聞****征袖溼**　　　遊子 ち聞いて 湿おい

**佳人纔唱****翠眉低**　　　佳人 かにいて る

相呼相喚湘江曲　　　相い呼び 相いぶ の

苦竹叢深春日西　　　の 深くして 西す

【語釈】

○煙蕪…煙霧の中の草叢。○錦翼…翼の美称。○品流…品がら、格付け。○山雞…キジ科の鳥。○青草湖…洞庭湖の南にある湖。○青草湖…洞庭湖の南にある湖。○黃陵廟…洞庭湖の口にあり、舜の二妃、娥香と女英を祀る廟。湘夫人祠ともいう。○遊子…旅人。○征袖…旅衣の袖。○佳人…美人。○翠眉…緑のまゆ。○湘江…湖南省最大の河川で、洞庭湖に注ぐ長江右岸の支流。○苦竹…まだけ。

**緋桃**

短牆荒圃四無鄰　　　 に無し

烈火緋桃照地春　　　烈火の 地を照らす春

**坐久好風休掩袂**　　　坐すること 久しくして 好風に をうをよ

**夜來微雨已****霑****巾**　　　夜来の微雨 已にを沾おす

**敢同****俗態期青眼**　　　敢えて と同じく 青眼を期せんや

**似有微詞動絳脣**　　　 の を動かす有るに 似たり

盡日更無鄉井念　　　 更にの念無し

此時何必見秦人　　　此の時 何ぞ必ずしも を見ん

【語釈】

○緋桃…ひもも。○短牆…短いかきね。○荒圃…荒れた畑。○巾…ハンカチ。○俗態…いやしい態度。○期青眼…人に良く思われようとすること。晉の元籍の故事。○微詞…微妙な言葉。○絳脣…紅い唇。○盡日…一日中。○鄉井…ふるさと。○秦人…桃花源記の秦の人。俗世間から離れた人。

**牡丹**

落盡春紅始見花　　　 落ち尽くして 始めて花を見る

花時比屋事豪奢　　　 を事とす

**買栽****池館恐無地**　　　買いて に栽え 地 無きを恐る  
**看到子孫能幾家**　　　看て 子孫に到るは くぞ

**門倚****長衢攢繡軛**　　　門はにりて をめ

**幄籠****輕日護香霞**　　　はを籠め を護る

歌鐘滿座爭歡賞　　　 満座 争って歓賞す

肯信流年鬢有華　　　肯えて信ぜんや 流年　に有るを

【語釈】

○春紅…様々な紅い春の花。○花…牡丹の花。○比屋…家々戸々。○

豪奢…牡丹の豪華さ。○池館…池の畔の館。○長衢…大通り。○繡軛…美しく飾った車馬。○輕日…微弱な日光。○香霞…雲霞のような美しさ、花の美しさを言うのに用いる。○歌鐘…音楽。○鬢有華…鬚が白くなること。

**牡丹　　　　　　　牡丹**

似共東風別有因　　　東風と別に 有るに似たり

絳羅高卷不勝春　　　 高く卷いて春に勝えず

**若教解語應傾國**　　　し 語を解せしむれば に 国を傾むくべく

**任是無情也動人**　　　 無情なるも た 人を動かす

**芍藥與君****爲近侍**　　　 君が爲に と為る

**芙蓉何處避芳塵**　　　芙蓉 何れの処か を避く

可憐韓令功成後　　　憐れむべし 功成りて後

辜負穠華過此身　　　にして 此の身を過ごせしを

**【語釈】**

○東風…春風。○絳羅…紅いうすぎぬのカーテン。○任是…たとえ～であっても。○近侍…家来。○芳塵…かぐわしい塵。○韓令…韓弘。戦功により中書令となったが、庭の牡丹を見て婦女子のものとして切り捨てさせた。○辜負…背く。○穠華…婦女子の青春の美貌。

**梅花　　　　　梅花**

呉王醉處十餘里　　　 酔う処 十余里

照野拂衣今正繁　　　野を照らし 衣を払い 今 にし

**經雨不隨山鳥散**　　　雨をるも 山鳥に隨いて 散せず

**倚風如共路人言**　　　風にりて 路人と共に言うが如し

**愁憐粉艶飄歌席**　　　愁いてむ の歌席にえるを

**靜愛寒香撲酒樽**　　　静かに愛す のをつを

欲寄所思無好信　　　に寄せんと欲すれども 無し

爲君惆恨又黃昏　　　君が為に すれば 又

【語釈】

○粉艶…妖艶な顔色。梅の花びらの形容。○寒香…ひややかな香。梅の香りの形容。○所思…想う人。○好信…都合の良い便。○惆恨…嘆き悲しむ。○黄昏…たそがれ。